

# 部 報

平成23年度 No.57

北海道大学馬術部



## ◆ 目 次 ◆

巻頭書 .....	井上 京	2
活動報告 .....		5
調教報告		
北彗号 .....	平芳 悠人	16
北創号 .....	平芳 悠人	18
北柊号 .....	柳田 睦仁	20
北凜号 .....	山川 晃平	23
北葉号 .....	江口 遼太	26
北焔号 .....	江口 遼太	28
チェリーアドミラル号 .....	宮田 昇太	29
入厩報告		
ビービーバンス号 .....	平芳 悠人	31
ラショウモン号 .....	山川 晃平	32
北翔号離厩特集 .....		33
北水報告 .....	岡崎 遼太郎	40
部員紹介 .....		42
OB名簿 .....		57
現役部員名簿 .....		68
編集後記 .....		72

## 飛越の随伴と鏡

部長 井上 京

部員達の競技時の写真を2005年より撮影しだした。連写機能のあるデジタル一眼レフカメラを使い出してからだ。これまで撮影した写真はすべて外付けハードディスク・ドライブに収めて部室に預けてあるので、過去の競技画像もさかのぼって見ることができるようになっている。本来であれば、部員ごとにCD-ROMなりDVDに焼き増しをし、さらにこれはという写真は大きくプリントしてあげると良いのだが、どうもそこまでなかなか手が廻らず勘弁願っている。だからぜひ自分自身の写真や先輩達の画像ファイルを、部室にあるHDDからコピーし、自分のパソコンのモニター上でじっくり見て欲しいと願っている。

競技時のいろいろな騎手の写真を見ていると、それぞれの癖や特徴がよく判って興味深い。特に注目するのは下半身、腰より下の姿勢と、鏡の関係である。部員に限らず好成績を収める選手の随伴には、やはりそれなりの共通項があるように感じる。言い古された事であるが、馬の飛越姿勢を邪魔せず、鞍上の騎手は馬の運動の妨げとならず、それでいて安定した人の姿勢が保たれている、そのような騎座を持っている。

ちょっと事例を見てみよう。以下の連続写真はいずれもよく入賞する3人馬の競技時の写真である。騎手はいったい誰か、当ててみて欲しい。



写真1



写真2

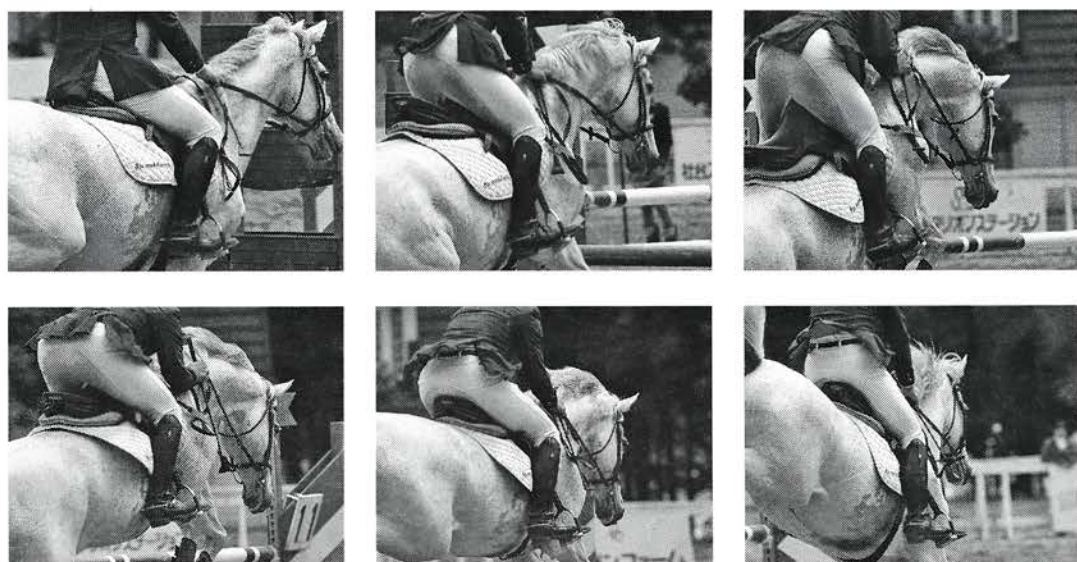


写真3

どの写真にも共通しているのは、騎手がしっかりと鞍を「踏んで」いることだ。鞍は「履く」のではなく「踏む」のだ、とは審判の荻野さんがいつも指摘されていることだ。騎手の体重は鞍を通じてしっかりとサドル全体で受け止められている。騎手の下半身には凝り固まった感がなく、脚はすっと鞍に乗っている。飛越の後半、着地に向かっては選手それぞれの癖のようなものが見受けられるが、飛越の頂点まではおしなべて皆、まっすぐ鞍に乗っているように見える。

どうして飛越時の騎手の姿勢にこだわるのか？ 飛越時の騎手の随伴姿勢にどんな意味があるのか？

カブリリー以前と以後で、障害飛越時の随伴姿勢が大きく変わったことはよく知られている。短い鐙に乗って深い前傾姿勢を取ることにより、馬は頭頸を伸展し、より楽な体勢を取りながら、不安も苦痛も感じることなく、障害を飛越できることになる。このとき、馬が不安や苦痛を感じない、ということが馬の調教上、とても大事なことである。いくら騎手が推進し扶助をしていても、馬にとって背中に背負っているもの（騎手）がバタバタぐらぐらした状態なら、馬は本能的に危険や不安を察知する。落ち着いて障害を飛ぶことにはならない。だから馬と人の信頼関係は、まず騎手の安定した騎座から生まれる。安定した騎座は、特に障害馬術では鐙にまっすぐ乗るということでしか得られない。地球上すべてのものに重力が働く限り、その重力を受け止めるものが必要で、それが障害飛越時には鐙しかない。

最後にもう一つ。これは経験の浅い部員の飛越時の連続写真。先の3人馬と比べてみて欲しい。一目瞭然と思うのだが。さあ、上手な先輩が目の前にいるのだから、その技を盗もう。

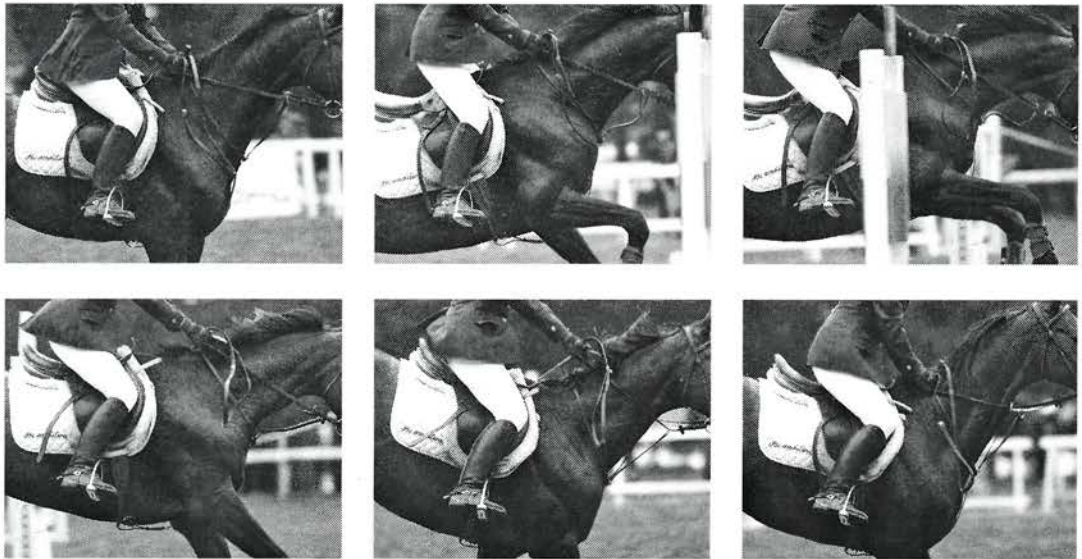


写真4

# 活 動 報 告

## 《主将》

### 江 口 遼 太

北大馬術部は現在、部員26人(3年目6人、2年目4人、1年目16人)、馬匹14頭で活動しています。

部員に関しては昨年春に1年目の部員が多く入部し、部員不足の心配はなく作業面やバイトなどに関しても一人一人の負担が減っているのは良いことだと思います。一方で下級生全体に目をとどかせにくくなっている面もあり、作業・騎乗ともにさらに上級生が全体に気を配っていく必要性を感じております。また部員の多様化も進んでおり、全員が競技を目指して騎乗に取り組んでいくことが難しくなっています。あくまで部としては全日学という目標を掲げながらも、競技志向ではない人たちにも目標・やりがいのある部活づくりが必要です。部員それぞれの考えや目標を理解しあい、尊重したうえで全日学という目標に向かって一つに協力し合っていけるようにすることが大切であると考えております。

馬匹に関しては、昨年秋にまとまった離厩と入厩がありました。長年北大馬術部で競技に活躍してくれていた北彗号(メジロゲネシス)が旭川乗馬クラブに離厩し、錦岡牧場からヤマニンエレメント号、白井牧場からピービーバンス号とラショウモン号が入厩いたしました。昨年北創号(サクラスペリオール)、北柊号(サクラロイヤル)、北凜号(ネイチャーヒーラー)の3頭が全日学に出場し、競技馬として使って行ける目処がある程度たったことから、次の世代の競技馬を育成していくためにも入厩した新馬の調教には力を入れていきたいと思っています。同時に、14頭と馬匹が多い中でも練習馬や競技馬を維持・成長させ下級生が十分に練習し競技で活躍できるようにと考えております。

最後になりますが、部の運営や騎乗面に関してOBやOG、馬関係の方々の協力なしには北大馬術部を維持していくことはできません。この場をお借りして日々の御礼を申し上げますとともにこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。部員同士が理解・協力し合い、北日学・全日学で昨年以上の成績を残せるよう1年間精一杯頑張っていくことで少しでもよい部活の基礎が出来ていけばと思います。

## 《副将》

### 柳 田 陸 仁

昨年北大馬術部としては久々に全日学障害で10位という順位がつかしました。シーズン前はどうか関係者の方々を心配させてしまいましたが、何とか乗り越えるこ

とができました。この要因としては単純に人数が多く各個人の負担が軽減されたこと、そして最上級生の人数が少なくチームの実力も足りない中で状況を打開すべく過去にとらわれずあらゆる意見が出て実行できたことが考えられます。ただこれで終わりではありません。さらに発展させなければなりません。常勝軍団を作っていく上で大切なことはルールを守れる集団であることです。特に馬を扱う部活である以上ルールは厳守しなければなりません。そして、それができて初めて戦う場に立つことができると思います。その上でさらに創造性豊かな意見が出てよりよい北大馬術部にしていければいいと考えています。

### 《主務》

#### 加 藤 亜也奈

9月より主務を引き継ぎました。主務として厩舎管理、大会運営、重要書類作成と担っています。最近の問題点として、厩舎、馬場の老朽化が進んでいることが挙げられます。学校側としっかりと話し合っていき、少しでもより良い設備を整えることができるようにしていきます。大会運営では北海道乗馬連盟より3つの競技会を任せていただいております。他団体の方々にご迷惑をおかけしないよう、不備がないように前もって準備をし、的確な対応を行うことを指示していきます。

馬術部は、OBの方々、馬術連盟、乗馬クラブ等の大きな援助で成り立っていることを認識し、恥ずかしくない行動を心がけるよう部全体で見直しあって活動していきたいと思います。

### 《馬匹》

#### 西 村 英 里

9/11にヤマニンエレメントが入厩し、10/10にイノウエホースクリニックの井上先生に去勢していただきました。先生のご好意で手術の見学も許可していただいて、部員が10人ほど間近で見学しました。最新の設備も見せていただき、とても勉強になりました。私たちの質問にも嫌な顔一つせずにご説明していただき、この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

また、北椎号がOB戦のあたりから原因不明で跛行しており、井上先生がヤマニンエレメントの術後を見に来られた際に跛行を見てもらったところ蹄骨が骨折していることがわかりました。北椎号はもともとクラブフットで蹄骨が沈下していて地面からの衝撃が伝わりやすくなっているそうです。二ヶ月休ませて、12月末から徐々に動かしています。二ヶ月も休んだおかげで毎年できる禿もなく、毛艶も良くなりました。

何かあったときにはいつも川崎さんや北大の田島先生などOBの方々にお世話になりました。未熟で基本的な質問にもいつも一つ一つ丁寧に答えていただき、大変あり

がたく感じています。引き続き怪我や事故が無く過ごせるよう勉強していくので、今後ともよろしく願います。

### 《後援会》

#### 宮田昇太

北大馬術部は、全国各地に散らばっているOB及び特別後援会員の方々のご支援ご声援により存続しています。後援会理事会、東京OB会を始め、たくさんの方々からの力強いバックアップを、常日頃から感じています。

昨年は新歓コンパや代替わりコンパ、追いコンなど貴重な現役部員との交流の機会を無事に持つことができました。毎回10名ほどの多くのOBにご参加を頂き、部員が今後の部活生活に活かせる貴重な話を聞くことができました。また、昨年は全日学で団体出場、平芳（2）&北創号が個人入賞など飛躍の年となりましたが、多くのOBの方々のご支援・ご声援があってこそその結果だと思っております。この結果を来年にもつなげていけるよう部員一同精進していきますので、今後ともよろしく願います。

最後に、現在郵送費節約のため、馬術部よりのご連絡をホットメールで行うことを進めております。メールアドレスをお持ちで、まだご登録がお済みでない方は、[hokudaibazyutubu@hotmail.co.jp](mailto:hokudaibazyutubu@hotmail.co.jp)までメールをお送りください。お手数ではありますが、よろしく願います。

### 《飼料》

#### 荒井冬香

今年はハイキューブ1kg、燕麦1kg、ふすま0,35kg、パワーサプリ0,1kg、塩大さじ1杯を馬ごとに少量を調節しながら朝・昼・夕の三回与え、乾草を1,5kgずつ朝・昼・夕・夜の四回与えています。またハイキューブ、ふすま、塩はふやかして与えています。飼料は明治飼糧さんから購入し、乾草と麦稈ロールは長岡さんからバイト代としていただいています。

### 《会計》

#### 藤村伊咲

今年は支出が収入に対し多くなってしまいました。この原因として以下のことが挙げられます。

- ・全日学が三木で行われたことなどによる交通費の増加
- ・馬運車が何度も故障したことによる車両費の増加

今後の対策としては、経費の削減はもちろんのこと、部員数の増加を生かしてバイト



をたくさん行うなどにより部員全体で収入の増加を図ることが重要であると考えています。

部員全体で部活動の運営を行っていくとともに、これからもOBOGの方々にはご理解、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

## 2011年1月～12月 会計報告

### 収入

部費	1,635,000
モモセバイト代	358,500
競馬場バイト代	1,906,883
セレクトセールバイト代	510,000
選挙バイト代	30,000
お祭りバイト	40,000
中曽根さんバイト	40,000
ノーザンバイト	30,000
オータムセールバイト代	390,000
北海道乗馬連盟乗馬振興金	9,000
北海道大会役務費	950,626
フレンドリー収入	276,000
馬輸送補助費	25,600
体育会強化費	271,177
北海道乗馬連盟補助金	965,986
寄付(瀧澤さん)	66,400
田口さん寄付	10,000
その他	87,766
計	7,602,938

### 支出

衛生	31,313
企画	68,235
北日幹事	201,952
記録	3,621
後援会	53,865
交通	1,961,727
作業	104,047
雑費	100,954
車両	1,169,040
飼料	1,588,951
大会関係	800,882
通信	31,119
装蹄	1,687,963
馬備	135,797
馬匹	300,245
ビデオ	36,508
薬品	84,864
計	8,361,083

## 前主将より

速水 秋

今年は、北日本大会では二走、総合にそれぞれ 5 頭ずつ出場し、二走、総合ともに団体優勝、また、全日では二走へ 4 頭、総合へ 2 頭が出場することができ、二走団体 10 位という、素晴らしい結果を残すことができました。団体での成績を残せるという事は、部活全体として馬や選手が育ってきている証拠であると思います。これまでの先輩方が時間をかけて育ててきた新馬達が、今年その成果を発揮することができて非常に嬉しく思います。また、選手は 2 年生、3 年生が中心なので、来年以降の活躍にも期待しています。

試合では良い成績を残すことができましたが、今年は大きな事件が起きた年でもありました。3 月には東日本大震災が発生し、幸いにも部員には怪我などはありませんでしたが、東北地方の馬術部では少なからぬ被害を受けており、北日本大会でお世話になっている南相馬市は津波等の大きな被害を受けました。被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。また、今年は北大での七帝戦開催や、全日の三木ホースランドパークでの初めての開催など、不慣れなこともたくさんありましたが、OB をはじめとするたくさんの方々のご協力のおかげで無事にシーズンを終えることができました。皆様の馬術部への支えの有難さを本当に実感する 1 年でした。この場を借りて深くお礼申し上げます。

そして、この 1 年を無事終えることができたのは、部員全員がよく話し合い、馬術部について真剣に考えてくれたからであるとも思います。これからも馬術部として団結して、頑張っていってください。最後に、部員の皆様のますますの活躍をお祈りしております。

## 卒部にあたって

### ●速水 秋(獣医・主将)

つらいことも楽しいこともたくさんありましたが、あっという間の4年間でした。今思うと、もっとやれたことがたくさんあったのに、と後悔することもあります。4年間大好きな馬達と素敵な部員の皆様と過ごすことができ本当に良かったと思います。こんなに楽しく馬術部で生活することができたのは、周りの方々の支えがあったからこそだと感じています。特に主将になってからは、沢山の方の支えを実感しました。先輩方、後輩の皆、井上先生、馬術部に関わってくださった皆様、そして馬達、至らない点が多かったと思いますが、4年間本当にありがとうございました。そして、最後は二人になってしまったけど、一緒に頑張ってくれた同期の坂田、本当にありがとう。これからも馬術部の部員の皆が楽しく充実した時間を馬術部で過ごすことができるよう、お祈りいたします。

## ◆ 2011年度戦績 ◆

### ●第39回 半澤杯記念馬術大会

#### ☆複合馬術競技(太秦杯)

順位	騎手	馬名	馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	田口 貴也	キャラメロG	ライディングヒルズ静内 49.43%	102.667	0	161.309
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2) 49.77%	101.967	4	162.847
3位	河原田 亨	ヒノデツートン	JRA札幌競馬場 56.21%	88.902	0	166.602
4位	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2) 49.43%	102.667	0	177.367
5位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3) 42.30%	117.135	0	201.135

#### ☆総合馬術競技2スターA

順位	騎手	馬名	馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	河原田 亨	ヒノデツートン	JRA札幌競馬場 56.21%			
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2) 51.26%			
3位	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2) 49.77%			
5位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3) 42.30%			

#### ☆第2課目

順位	騎手	馬名	馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	岡崎 遼太郎	グランクリュ	JRA函館競馬場 62.35%			
2位	鈴木 裕美	駿麗	酪農学園大学 55.49%			
3位	西村 英里	北兎	北海道大学(3) 53.33%			
8位	加藤 亜也奈	北煌	北海道大学(3) 47.65%			
9位	松尾 慧	北煌	北海道大学(2) 47.45%			

#### ☆第3課目

順位	騎手	馬名	馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	田口 貴也	エルヴァージュ	ライディングヒルズ静内 65.43%			
2位	岩本 浩	グランクリュ	JRA函館競馬場 62.68%			
3位	飛渡 清司	バセロット	JRA函館競馬場 60.65%			
8位	祖父江 友芳	北椎	北海道大学(2) 50.43%			
9位	坂田 直子	北椎	北海道大学(4) 47.83%			

#### ☆110cmクラス(半澤杯)

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	米谷 宏介	シルバーデューク	JRA札幌競馬場 0	75.73	0	43.52
2位	中村 知世	キャラメロG	ライディングヒルズ静内 0	64.08	落馬E	
3位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2) 4	72.3		

#### ☆100cmクラス(河田杯)

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2) 0	76.32	0	46.05
2位	山川 晃平	北凜	北海道大学(3) 0	78.8	0	46.17
3位	中村 知世	キャラメロG	ライディングヒルズ静内 0	62.41	0	46.38
4位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3) 0	76.45	0	48.23
5位	山川 晃平	チェリーアドミラル	北海道大学(3) 4	74.19		
10位	江戸 裕人	北兎	北海道大学(H22卒) 18	105.83		
15位	江口 遼太	北菓	北海道大学(3) 3反E			
OP	江口 遼太	北菓	北海道大学(3) 6	90.76		

#### ☆90cmクラス(小池杯)

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	吉田 総一郎	ヒノデツートン	JRA札幌競馬場 0	69.01		
2位	速水 秋	北凜	北海道大学(4) 0	69.64		
3位	紺野 紘矢	北凜	北海道大学(2) 0	72.19		
10位	大森 杏奈	北菓	北海道大学(3) 10	74.14		
15位	和田 茜	北兎	北海道大学(2) 棄権			

#### ☆80cmクラス

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	岩上 洋子	トウカイカムカム	北星乗馬クラブ 0	77.49		
2位	祖父江 友芳	北椎	北海道大学(2) 0	75.14		
3位	中村 宏	ジャマイカ	ライディングヒルズ静内 0	74.32		
4位	坂田 直子	北椎	北海道大学(4) 8	86.24		

#### ☆70cmクラス(井上杯)

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	高居 名菜	北凜	北海道大学(2) 0	83.67		
2位	佐藤 龍一	トーセンスノーマ	JRA函館競馬場 0	80.65		
3位	赤松 愛	マキシマムプレイズ	酪農学園大学 0	79.45		
4位	西野 綾乃	チェリーアドミラル	北海道大学(2) 0	78.83		
15位	多田 健一郎	北椎	北海道大学(3) 1	86.47		
20位	品川 雅彦	北凜	北海道大学(2) 3	93.61		

#### ☆複合馬術競技 110cm

順位	騎手	馬名	馬場得点率	調教減点	障害減点	総減点
1位	田口 貴也	キャラメロG	ライディングヒルズ静内 0	58.64		
2位	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2) 0	74.7		
3位	河原田 亨	ヒノデツートン	JRA札幌競馬場 0	77.7		
5位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3) 0	84		
7位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2) 4	60.88		
8位	江口 遼太	北凜	北海道大学(3) 4	73.27		

#### ☆クロスバー飛越競技

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	柳村 崇平	ジーティーボス	JRA札幌競馬場 0	85.2		
2位	高志 優也	バイズウォーター	JRA札幌競馬場 0	85.62		
3位	長谷川 峰高	オーデンセ	JRA札幌競馬場 0	83.76		
4位	和田 茜	北煌	北海道大学(2) 0	83.7		
8位	加藤 亜也奈	北煌	北海道大学(3) 0	75.01		
9位	柳田 睦仁	北煌	北海道大学(3) 1	87.7		

### ●第25回 北海道新緑馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 5月)

#### ☆標準小障害A

順位	騎手	馬名	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	勝野 晶子	咲良	オーフルホースコミュニオン 0	76.73	0	44.78
2位	藤田 祥太	テノリオ	酪農学園大学 0	74.73	0	46.39

3位	加藤 芽衣	アトム	ライディングチームKS	0	65.06	落馬E
9位	平芳 悠人	北替	北海道大学(2)	6	99.21	
13位	山川 晃平	北凜	北海道大学(3)	8	76.37	
17位	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	8	83.63	
18位	出戸 裕人	北兎	北海道大学(H22卒)	9	90.08	
2反E	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)			
2反E(OP)	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)			

☆標準中障害D				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	楠木 貴成	ケンデリーワシント	ノーザンファーム	0	74.23	0	43.73
2位	富士原 光	柏桜	帯広畜産大学	0	70.31	0	49.07
3位	日野 光央	ゼンノエルブルース	モモセライドンファーム	0	82.2	4	43.97
8位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	8	72.34		
9位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3)	8	72.65		
18位	山川 晃平	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	16	77.34		

☆標準小障害B part1				減点	タイム
1位	村上 恵祐	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	0	65.93
2位	廣田 翔太郎	騾麗	酪農学園大学	0	67.57
3位	本巢 春彦	バラディン	ノーザンファーム	0	69.2
8位	大森 杏奈	北鳳	北海道大学(3)	0	82.5
13位	江口 遼太	北菓	北海道大学(3)	4	73.78
23位	出戸 裕人	ハートロック	北海道大学(H22卒)	8	81
2反E	澤田 恵梨子	北菓	北海道大学(2)		

●第49回国立七大学総合体育大会馬術競技会  
(於:北海道大学 5月28日)  
優勝 名古屋大学  
準優勝 東京大学

●北海道三大学定期交流戦 (於:帯広畜産大学 6月12日)				減点	タイム	総減点	総タイム
1位	酪農学園大学	中原 秋野	柏酔	610	2反E	610	142.05
			柏桜	0	61.91		
			三浦 柏影	0	80.14		
2位	帯広畜産大学	奥原 丸山	柏酔	690	2反E	690	132.85
			富士原 柏桜	0	62.73		
			富士原 柏影	0	70.12		
3位	北海道大学	西野 松尾	柏酔	690	2反E	699	175.08
			澤田 柏桜	0	76.94		
			澤田 柏影	9	98.14		

●第46回北海道春季馬術大会

(於:ノーザンホースパーク)				得点率
☆馬場馬術競技第2課目2009				
1位	今野 紗保理	騾春	酪農学園大学	57.06%
2位	伊藤 晃子	リューク	モモセライドンファーム	55.88%
3位	津田 サマンサ	ビッケレット	ノーザンファーム	55.00%
9位	加藤 亜也奈	北鳳	北海道大学(3)	51.76%
11位	大森 杏奈	北煌	北海道大学(3)	50.29%

3課目B2009 part1				得点率
1位	館谷 美智子	もんすけ	モモセライドンファーム	58.84%
2位	木村 浩	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	54.35%
3位	星川 知子	ウインダム	モモセライドンファーム	54.06%
4位	山川 晃平	北凜	北海道大学(3)	52.46%
8位	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)	44.49%

☆2課目2009				得点率
1位	津田 サマンサ	ビッケレット	ノーザンファーム	56.18%
2位	神田 美里	ニコラス	モモセライドンファーム	55.59%
3位	伊藤 晃子	リューク	モモセライドンファーム	53.53%
5位	宮田 昇太	北煌	北海道大学(3)	50.00%
6位	松尾 慧	北煌	北海道大学(2)	49.71%

3課目B2009 part2				得点率
1位	上田 未来	騾春	酪農学園大学	56.52%
2位	木村 浩	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	55.94%
3位	館谷 美智子	もんすけ	モモセライドンファーム	54.78%
9位	和田 茜	北煌	北海道大学(2)	52.03%
13位	祖父江 友芳	北兎	北海道大学(2)	46.23%

☆標準小障害A				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	鈴木 裕美	騾麗	酪農学園大学	0	61.28	0	36.67
2位	伊藤 文江	ブランドジャズ	ライディングファーム・フセ	0	66.01	0	37.59
3位	広瀬 楓	ホワイトマーブル	チェスナットファーム	0	63.12	3	40.46
8位	松尾 慧	グレンキースJ	中村宏厩舎	4	62.2		
2反E	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)				
2反E	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)				

☆標準中障害D				減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	鈴木 亜依	フルオブワンダー	モモセライドンファーム	0	67.14	0	46.59
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	0	74.76	8	47.59
3位	四位 真理子	オリオンI	十勝柏友会乗馬クラブ	0	76.7	経路E	
11位	山川 晃平	北凜	北海道大学(3)	10	81.64		
13位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3)	12	75.76		
2反E	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)				

2反E 平芳 悠人 北替 北海道大学(2)

☆標準小障害C				減点	タイム
1位	森下 由佳	パニラシェイク	モモセライディングファーム	0	61.71
2位	品川 雅彦	北濃	北海道大学(2)	0	62.53
3位	鈴木 裕美	マルカシリウス	酪農学園大学	0	62.89
6位	紺野 紘矢	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	66.75
10位	西野 綾乃	北濃	北海道大学(2)	4	79.2
11位	祖父江 友芳	北椎	北海道大学(2)	4	
2反E	坂田 直子	北椎	北海道大学(4)		
2反E(OP)	坂田 直子	北椎	北海道大学(4)		

☆標準小障害B				減点	タイム
1位	金沢 宗禎	アトム	ライディングチームKS	0	49.26
2位	木村 和士	ルフィー	三木田乗馬学校	0	50.92
3位	加藤 芽衣	アトム	モモセライディングファーム	0	51.25
11位	松尾 慧	北創	北海道大学(2)	4	61.95
13位	出戸 裕人	北兎	北海道大学(H22卒)	9	62.84
16位	速水 秋	北風	北海道大学(4)	6	75.78
24位	江口 遼太	北葉	北海道大学(3)	12	63.59

☆標準小障害A S&H				タイム
1位	橋本 英之	サニー	ノーザンファーム	60.9
2位	出戸 裕人	ラビットハート	RCメインフィールズ	63.12
3位	村上 恵祐	グラン・ルージュ	北星乗馬クラブ	63.36
13位	出戸 裕人	北兎	北海道大学(H22卒)	72.29
22位	江口 遼太	北葉	北海道大学(3)	96.51

☆中障害D S&H				タイム
1位	鈴木 亜衣	咲良	オーフルホースコミュニン	71
2位	鈴木 亜衣	フルオブワンダー	モモセライディングファーム	72.7
3位	鈴木 重雄	フルオブワンダー	モモセライディングファーム	77
19位	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	98.37
20位	山川 晃平	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	100

☆中障害C S&H				タイム
1位	米谷 宏介	シルバーデューク	JRA札幌競馬場	78.22
2位	加藤 芽衣	コルト	ライディングチームKS	80.34
3位	小島 正志朗	オリオン I	十勝柏友会乗馬クラブ	81.62
2反E	平芳 悠人	北替	北海道大学(2)	

☆標準小障害C				減点	タイム
1位	平野 優	駿宝	酪農学園大学	0	56.28
2位	水沼 佐和子	ミスターブルー	ほくせい乗馬クラブ	0	59.46
3位	廣田 翔太郎	マルカシリウス	酪農学園大学	0	68
5位	澤田 恵梨子	北葉	北海道大学(2)	4	59.04
落馬E	坂田 直子	北椎	北海道大学(4)		

●第83回北日本学生馬術選手権大会

☆予選(男子)				得点率
Aブロック	廣島 孝祐	酪農学園大学	ガンジュサン	51.742%
	福田 一平	酪農学園大学		50.833%
	江口 遼太	北海道大学(3)		49.470%
	影山 敦	帯広畜産大学		44.091%
	小武海 拳	弘前大学		41.970%

※上位2名が準決勝進出のため予選敗退

Cブロック				得点率
	柳田 睦仁	北海道大学(3)	ラ・カスターニャ	55.303%
	菅野 竣太	岩手大学		52.576%
	富士原 光	帯広畜産大学		47.727%
	佐藤 敦	東北大学		44.091%
	赤星 涉	福島大学		43.864%

☆準決勝(男子)				得点率
Bブロック	金井 功太	北里大学	オニタイジ	48.636%
	野中 穂	岩手大学		46.591%
	柳田 睦仁	北海道大学(3)		45.758%

※上位2名が決勝進出のため予選敗退

●第83回北日本学生馬術選手権大会

☆予選(女子)				得点率
Bブロック	鈴木 裕美	福島大学	雪嵐	55.833%
	速水 秋	北海道大学(4)		46.439%
	大森 杏奈	北海道大学(3)		45.758%

☆準決勝(女子)				得点率
Bブロック	鈴木 裕美	福島大学	マイネルイディオス	51.970%
	速水 秋	北海道大学(4)		51.667%
	小林 真梨子	北里大学		50.606%
	今野 紗保理	酪農学園大学		50.303%

☆決勝(女子)				減点	タイム	馬場得点	総得点
1位	鈴木 裕美	酪農学園大学	レーヴェトワール	10	65.81	317.5	307.5
2位	鈴木 裕美	福島大学		0	64.44	286.5	286.5
3位	速水 秋	北海道大学(4)		5	67.80	273.5	268.5
4位	新井 千尋	帯広畜産大学		18	76.44	252.5	234.5

●第36回北海道馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 7月22日～24日)

☆標準小障害A

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム	J.O.減点	J.O.タイム
1位	大林 弘明	ナーシャルバトル	新冠乗馬スポーツ少年団	0	91.39	0	33.87
2位	澤口 智邦	オリオン1	十勝柏友会乗馬クラブ	0	70.67	0	37.68
3位	山本 栄輔	ラインハート	RCメインフィールズ	0	72.81	0	38.47
17位	江口 遼太	北焔	北海道大学(3)	8	79.21		
20位	江口 遼太	北菓	北海道大学(3)	8	95.47		

☆標準中障害D

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	0	77.92
2位	橋岡 定雄	ホワイトマーブル	チェスナットファーム	0	84.17
3位	鈴木 亜衣	フルオブワンダー	モモセライディングファーム	4	70.15
6位	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2)	4	81.2
14位	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	8	81.84
24位	江口 遼太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	20	81.31

☆標準中障害C

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	奥原 秋津	柏海	帯広畜産大学	0	93.23
2位	清水 靖士	カイエン	JRA日高育成牧場	4	75.82
3位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	4	78.89
5位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3)	8	91.65

☆標準小障害B

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	村上 恵祐	ダンシングラブター	札幌乗馬倶楽部	0	72.82
2位	日高 修平	スリーオペレーター	ライディングヒルズ静内	0	73.87
3位	澤田 恵梨子	北椋	北海道大学(2)	0	77.67
7位	和田 茜	北菓	北海道大学(2)	4	74.64
16位	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)	8	82.54
18位	松尾 慧	ガウアーB	中村宏厩舎(2)	12	82.18

☆標準小障害C part1

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	住田 優美	駿宝	酪農学園大学	0	78.54
2位	川合 達啓	ワンポイント	ノーザンホースパーク	0	79.6
3位	高居 名菜	北鳳	北海道大学(2)	0	83.21
6位	西野 綾乃	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	4	86.6
8位	澤田 恵梨子	北苑	北海道大学(2)	4	87.23
9位	祖父江 友芳	北苑	北海道大学(2)	8	79.73
2反E	中村 円香	北鳳	北海道大学(2)		

☆小障害A S&H

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	山本 栄輔	ラインハート	RCメインフィールズ	0	64.59
2位	野澤 克彦	ザッツザハリー	JRA日高育成牧場	0	65.78
3位	澤口 智邦	アイビー	十勝柏友会乗馬クラブ	0	68.62
25位	速水 秋	北鳳	北海道大学(4)	0	95.93

☆標準小障害C part2

順位	騎手	馬名	所属	減点	タイム
1位	蝦名 亜希子	ナーシャルバトル	にいかっふほろシリ乗馬クラブ	0	67.1
2位	水沼 佐和子	ミスターブルー	ほくせい乗馬クラブ	0	69.75
3位	川合 達啓	ワンポイント	ノーザンホースパーク	0	70.82
6位	紺野 紘矢	北菓	北海道大学(2)	0	74.82
落馬E	品川 雅彦	北菓	北海道大学(2)		

●第48回北日本学生馬術大会

(於:ノーザンホースパーク 8月14日～18日)

☆学生賞典障害飛越競技(二回走行)

順位	騎手	馬名	所属	1走目タイム	1走目減点	2走目タイム	2走目減点	合計タイム	総減点
1位	江口 遼太	北焔	北海道大学(3)	74.68	8	80.90	1	155.58	9
2位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	63.96	12	69.11	4	133.07	16
3位	富士原 光	柏枝	帯広畜産大学	64.25	8	70.50	8	134.75	16
4位	鈴木 裕美	テノリオ	酪農学園大学	82.81	22	68.82	16	151.63	38
4位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3)	88.59	23	74.20	16	162.79	39
5位	山川 晃平	北凜	北海道大学(3)	70.35	24	69.21	24	139.56	48
6位	菅野 竣太	レーヴェトワール	岩手大学	78.50	25	63.92	24	142.42	49
2反E	山田 真澄	柏爵	帯広畜産大学	72.89	0				
2反E	佐々木 遥菜	マイネル・イディオス	岩手大学						
2反E	上田 未来	チャレンジ8	酪農学園大学						
2反E	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)						
落馬E	野中 穂	ウラン	岩手大学						
落馬E	奥原 秋津	柏海	帯広畜産大学			65.31	12		
落馬E	影山 敦	柏嵐	帯広畜産大学			74.04	8		

☆学生賞典総合馬術競技

順位	騎手	馬名	所属	調教審査	耐久審査	余力審査	総減点
1位	奥原 秋津	柏海	帯広畜産大学	69.83	13.2	4	87.03
2位	廣田 翔太郎	エベレストクライユ	酪農学園大学	74.83	14.0	8	96.83
3位	平芳 悠人	北創	北海道大学(2)	63.45	41.6	0	105.05
4位	鈴木 裕美	テノリオ	酪農学園大学	63.62	39.2	5	107.82
5位	菅野 竣太	チュルク・タシ	岩手大学	74.66	26.0	28	128.66
6位	福島 由子	零	帯広畜産大学	70.00	54.8	4	128.80
7位	柳田 睦仁	北椋	北海道大学(3)	73.97	54.0	8	135.97
8位	江口 遼太	北菓	北海道大学(3)	67.41	37.6	32	137.01
9位	福田 一平	駿麗	酪農学園大学	77.07	116.8	4	197.87
10位	富士原 光	柏枝	帯広畜産大学	74.14	124.8		202.94
余力E	平芳 悠人	北慧	北海道大学(2)	67.24	29.2	2反E	
余力E	影山 敦	柏爵	帯広畜産大学	67.76	30.8	2反E	
耐久E	上田 未来	駿割	酪農学園大学	62.93	3反E		
耐久E	山川 晃平	北凜	北海道大学(3)	70.35	3反E		
耐久E	佐々木 遥菜	マイネル・イディオス	岩手大学	75.35	4反E		
耐久E	山田 真澄	柏影	帯広畜産大学	86.21	4反E		

耐久E	菅野 峻太	レーヴェトワール	岩手大学	65.00	落馬E
耐久E	山田 真澄	柏爵	帯広畜産大学	70.86	落馬E
耐久E	野中 穂	ウラン	岩手大学	76.73	棄権

☆小障害A				減点	タイム
1位	澤田 恵梨子	北柊	北海道大学(2)	4	62.85
2位	鈴木 裕美	マルカシリウス	酪農学園大学	8	66.92
3位	和田 茜	ガウアーB	北海道大学(2)	14	92.71
5位	紺野 紘矢	チェリーアドミラル	北海道大学(2)	16	63.67
2反E	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)		
2反E	速水 秋	北風	北海道大学(4)		
2反E	松尾 慧	ガウアーB	北海道大学(2)		
OPEN	宮田 昇太	チェリーアドミラル	北海道大学(3)	12	59.71
OPEN	速水 秋	北風	北海道大学(4)	落馬E	

☆小障害B				減点	タイム
1位	加藤 亜也奈	北椎	北海道大学(3)	0	58.78
2位	平野 優	驥麗	酪農学園大学	0	62.87
3位	福田 一平	マルカシリウス	酪農学園大学	0	63.17
8位	中村 円香	北風	北海道大学(2)	0	67.82
9位	西村 英里	北兎	北海道大学(3)	0	67.85
10位	高居 名菜	北菓	北海道大学(2)	1	74.34
25位	宮田 昇太	ハートロック	北海道大学(3)	16	83.59
2反E	坂田 直子	北椎	北海道大学(4)		
OPEN	速水 秋	北風	北海道大学(4)	4	64.42

☆馬場馬術競技第3課目B2009				得点率
1位	萩野 大樹	駿春	酪農学園大学	60.579
2位	遠藤 李香	福燕	福島大学	59.565
3位	澤田 恵梨子	北煌	北海道大学(2)	54.927
4位	速水 秋	北風	北海道大学(4)	54.782
5位	加藤 亜也奈	北風	北海道大学(3)	53.043
7位	和田 茜	北煌	北海道大学(2)	51.884
11位	西村 英里	北兎	北海道大学(3)	49.275

●第25回 北海道秋季馬術大会  
(於:ノーザンホースパーク)

☆第2課目 part1				得点率
1位	宮田 昇太	エルバージュJ	中村宏厩舎(3)	57.06%
2位	渡邊 理恵	ルシエルブルー	モモセライディングファーム	54.31%
3位	川上 義文	ジョニーノデンゴン	モモセライディングファーム	53.53%

☆標準中障害D				減点	タイム
1位	野坂 拓史	フルオブワンダー	モモセライディングファーム	0	68.17
2位	村上 恵祐	グラン・ルージュ	札幌乗馬倶楽部	0	67.45
3位	畠山 彩	ダンデライオン	三木田乗馬学校	0	63.51
4位	宮田 昇太	北凜	北海道大学(3)	4	59.59
8位	江口 遼太	北柊	北海道大学(3)	8	58.43

☆標準中障害C				減点	タイム
1位	柳田 睦仁	北柊	北海道大学(3)	20	63.31
2位	田口 貴也	キャラメロG	中村宏厩舎	21	91.11
3位	西原 和郎	ライジングハート	ライディングヒルズ静内	24	59.81
5位	山川 晃平	オーエン	北海道大学(3)	32	63.31

標準小障害C part1				減点	タイム
1位	畠山 朋弘	ゴメンアソバセ	三木田乗馬学校	0	61.01
2位	五十嵐 めぐみ	グリッターボーイ	にいかっぶほろシリ乗馬クラブ	0	63.09
3位	舟田 亮太	駿宝	酪農学園大学	0	63.61
5位	加藤 亜也奈	北椎	北海道大学(3)	0	64.56
6位	西野 綾乃	北椎	北海道大学(2)	0	67.68
11位	江口 遼太	ハートロック	北海道大学(3)	4	67.48

☆標準小障害B part1				減点	タイム
1位	高橋 正樹	グレンキースJ	中村宏厩舎	0	54.17
2位	石田 淑子	ジャスティス	旭川乗馬倶楽部	0	56.96
3位	瀬戸 雄大	マキシマムブレイズ	酪農学園大学	0	58.78
7位	江口 遼太	ハートロック	北海道大学(3)	0	66.28

☆標準小障害C part2				減点	タイム
1位	半田 佑介	シャンパーニュ	大樹ライディングクラブ	0	60.7
2位	中村 円香	北風	北海道大学(2)	0	65.35
3位	若生 五月	メジロラストパン	モモセライディングファーム	0	69.34
4位	西村 英里	北椎	北海道大学(3)	0	71.06

☆ステップアップジャンピング60				減点	タイム
1位	井手坂 駿也	ミナミノゴージャス	静内農業高校	0	60.51
2位	佐藤 嶺	サルビア	静内農業高校	0	62.75
3位	佐藤 詩織	北風	北海道大学(1)	0	64.54
4位	高居 名菜	北風	北海道大学(2)	0	71.54

●第31回山下杯・河田杯記念馬術大会  
(於:酪農学園大学 10月8日)

☆100cm障害飛越競技				減点	タイム
1位	松尾 慧	北風	北海道大学(2)	4	83.16
2位	柳田 睦仁	北風	北海道大学(3)	8	107.66



☆80cm障害飛越競技			減点	タイム
1位	今野 紗保理	駿劉	0	62.87
2位	山川 晃平	北亮	0	70.88
3位	祖父江 友芳	北亮	4	58.15

☆ジムカーナ			減点	タイム
1位	其田 もも子	駿宝		96.12
2位	井上 裕美	駿宝		96.94
3位	井上 瞳	駿宝		97.87
4位	道巴 麻生	マキシマムプレイズ		99.31
7位	小澤 瞳	マルカシリウス		110.65

●モモセダービー (於:モモセライディングファーム 10月10日)			減点	タイム
3位	古満 まりの	セイレーンズソング	0	86
4位	山谷 寛介	ジョニーノデンゴン	0	88
10位	小山 亮	フォンテーヌ	8	73
経路違反E	荒井 冬香	ジョニーノデンゴン		

●OB戦 (於:北海道大学 10月15日)			減点	タイム
☆120cmクラス				
1位	柳田 睦仁	北柊	0	72.47
2位	山川 晃平	北凜	4	73.06

☆100cmクラス			減点	タイム
1位	平芳 悠人	北慧	4	94.08
2反E	江口 遼太	北菓		

☆80cmクラス			減点	タイム
1位	宮田 昇太	ハートロック	0	68.53
2位	平芳 悠人	ビービーバンス	0	72.97
3位	山川 晃平	北亮	0	73.30
4位	加藤 亜也奈	北椎	0	77.88
5位	西野 綾乃	北凜	4	69.57
6位	江口 遼太	ハートロック	4	70.94
7位	品川 雅彦	北椎	4	108.07
2反E	高居 名菜	北柊		

☆クロス			減点	タイム
1位	佐藤 敬近	北亮	0	60.44
2位	増永 梨合花	北凜	0	60.53
3位	藤原 勝	チェリーアドミラル	0	66.22
4位	梶山 恭子	北凜	0	66.25
5位	宇佐美 洋夢	北菓	0	73.91
6位	山川 倫明	北椎	0	75.62
7位	山本 航平	北菓	0	75.84
8位	笹原 良平	北椎	0	76.94
9位	東谷 貴	北亮	0	76.97
10位	村木 泰子	北凜	0	78.62
11位	荒井 駿	北菓	0	81.62
12位	綾部 美晴	ハートロック	0	83.25
13位	岡本 健吾	北椎	0	83.28
14位	松村 萌美	チェリーアドミラル	4	58.97
15位	山口 大地	チェリーアドミラル	8	63.47
16位	荒瀬 匡宗	ハートロック		
2反E	佐藤 詩織	チェリーアドミラル		
2反E	原田 航	北菓		
2反E	石井 祐佳	北凜		
落馬E	藤村 伊咲	北凜		
OPEN	江口 遼太	北菓	4	67.92
OPEN	松尾 慧	北凜	0	67.92

●全日本学生馬術大会 (於:三木ホースパーク)			一走目減点	二走目減点	合計減点
☆学生賞典障害飛越競技					
1位	谷脇 恭平	バーデン・バーデン	0	0	0
2位	伊藤 昌展	桜珀	4	0	4
3位	吉田 賢人	明花	0	4	4
17位	平芳 悠人	北創	8	8	16
22位	影山 敦	柏嵐	4	16	20
40位	江口 遼太	北焔	12	20	32
53位	鈴木 裕美	テノリオ	36	36	72
55位	柳田 睦仁	北柊	40	40	80
2反E	奥原 秋津	柏海			
2反E	山川 晃平	北凜			
2反E	富士原 光	柏桜			
2反E	新井 千尋	柏爵			
2反E	上田 未来	チャレンジ8			

☆学生賞典総合馬術競技			調教減点	耐久減点	余力減点	総減点
1位	上原 佑紀	桜鶴	50.8	6.0	0	56.8
2位	伊藤 昌展	桜隼	54.6	0	4	58.6
3位	西脇 友彦	明葉	55.4	5.2	4	64.6
13位	平芳 悠人	北創	73.5	54.4	4	131.9
16位	福田 一平	エベレストクライマ	71.6	73.2	20	164.8
17位	奥原 秋津	柏海	77.9	97.2	0	175.1
19位	鈴木 裕美	テノリオ	70.0	92.0	16	178.0

耐久E	柳田 睦仁	北校	北海道大学(3)	92.2	E	-
耐久E	福島 由子	零	帯広畜産大学	73.1	E	-

●第51回 北日本馬場馬術定期新人戦  
(11月 於:東北大学)

☆予選Bブロック

	原田 航	社太郎	得点率
	梶山 恭子	オリオンボーイ	50.59%
	東谷 貴	社煌	48.24%
			44.31%

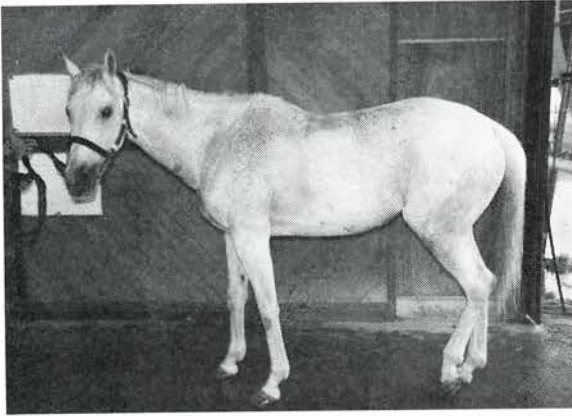
原田は各馬賞

1位 東北大学  
2位 北海道大学  
3位 北里大学・福島大学

※上位1校が決勝進出のため予選敗退

# 調教報告

## ◆北彗号（メジロゲネシス）◆



セン サラ 葦毛  
平成5年5月30日生  
北海道伊達市産  
父 メジロティターン  
母 メジロマリア  
平成10年11月8日入厩

## 平 芳 悠 人

まず初めに、僕の力不足のためにゲネを離厩させることになってしまい、大変申し訳なく思っております。完全に失敗に終わった一年でした。その原因は先輩方が部報に書かれていることと似たようなもので、最後までそこからの脱却ができずこう言う結果に終わってしまったのだと思います。とはいえ、ゲネから得たものは非常に大きく、貴重なものなので、今の僕がいるのもゲネのおかげだと思っています。長々と書くのは好きではないので、内容としては「馬体管理について／馬の精神的面について」の二つの点にしぼって書こうと思います。ゲネに携わった方なら読む前に何が言いたいかだいたい分かるのではないのでしょうか。技術面についてのことは少なくなります。先輩方が部報で書かれているのが分かりやすいため、先輩方があまり強調されていないことを書こうと思い、この二点を選びました。調教報告というにはふさわしくないかもしれませんがどうかお許してください。

### <馬体管理について>

ゲネは腰が弱いため、腰には特に注意を払っていましたが、シーズンの中盤（その前から疲労はたまっていたのだとは思いますが）で腰を痛めてしまいました。これは今回僕がゲネで結果を残せなかった原因の一つであると思います。ゲネは調子の良いときは弾発が非常にあり、前進氣勢も旺盛で、かつ、まとまっておりととても乗りやすいのですが、今期の後半はそのようなことがたまにしかなく、いい状態を維持できませんでした。その原因の一つとして腰を痛めていたことがあげられるのではないかと思います。

腰を痛めていたときに、出戸兄から温浴（熱めのお湯に温泉のもとを入れ、それを馬にゆっくりかける）をすすめられ、実践してみると、次の日の運動ではまるで別馬かのような動きをしました。そしてその次の試合でも普段よりはいい成績で終えることができました。馬体管理がいかに重要かが分かります。

### <馬の精神面について>

ゲネはモチベーションがすぐに下がる馬で、同じことを少しでも連続してやっていると飽きてしまって、それまでの状態とはがらっと変わってしまいます。ゲネに乗っているときは特に神経を使い、工夫をしながら馬が飽きないように、楽しく運動ができるようにはどうすれば良いのかを考えながら乗ることが必要でした。馬の精神面も馬術において大きな割合を占めていることが分かります。どの馬に乗るときにも、馬がどういう気持ちでいるのかを理解しながら、また、馬をどういう気持ちにして騎乗するのかを考えておくべきではないでしょうか。

ゲネから教わったことはもちろんこれだけではありませんし、技術面においてもたくさん重要なことを教えてもらいました。しかし、やはり僕にとって一番印象に残り、他の人にも知っておいてほしいのはこの二点になります。特に馬の精神面については、あまり意識できている方は少ないのではないのでしょうか。ゲネはかなり繊細な馬でそれが表に出ていたのだから分かりやすいのですが、他の馬も決してそういうことに影響されないと言うことではないと思うので、ぜひ馬の気持ちを考えながら騎乗などをしていけるように心がけていってもらえたらと思います。もちろんこんな偉そうなことを言っている僕もまだまだできていないのですが。

最後に非常に多くのことを教えてくれたゲネに感謝の意を表して終わりたいと思います。

ゲネ、ありがとう。

◆北創（サクラスペリオール）◆



セン サラ 黒鹿毛  
平成13年4月9日生  
北海道静内郡静内町産  
父 サクラローレル  
母 サクラヒーロー  
平成18年6月24日入厩

平 芳 悠 人

今年はスぺのおかげで、全日学の二走・総合で入賞させていただくことができました。僕が担当させていただくことになったときには、スぺはもう結果を残さなければならぬ時期・レベルにあったので、とりあえず結果が残せたことは良かったと思います。本当にすごい馬だなあと改めて実感しました。

さて、本題に入っていきたいと思います。僕がスぺの担当をさせていただくことになった頃には馬の状態・能力などは大変いい状態で、後は全日学でいい経路走行ができるようにする実践力が必要でした。どういうことかと言えば、ノーザンなど普段行って慣れている場所ではほぼ問題は無いのですが（結果に関しての話）、慣れてないところや、慣れてない障害に対しては全く別馬のような状態になってしまうことがあります。現段階ではせっかくの能力を持ちながら全日学では全く勝負にならないということです。

その原因は、やはり馬の経験が足りないということと、馬がコントロール下に入っていないということが考えられます。馬の経験に関してはできるだけ色々なところに行って、いろんな障害をやっていくしか無いので、まず、馬との信頼関係を築き、コントロール下に入れることを考えました。

といっても、僕のレベルは到底出戸兄には及ばず、まともに乗りこなすこともできなかったため、現状をできるだけ維持できるようにしながら、まず基本的なことを当たり前にできるようにすることを心がけました。そのため、部報にあえて書くような大それたことはやっておらず、細かく書いても分かりにくく退屈になるだけなのでやめておきます。失敗が無いように出戸兄にたまに馬の状態を見てもらいながら、練習を進めていきました。また、肢と肩が痛みやすく、少しやりすぎたり、ほぐれていなかったり、バランスが前に行っているとすぐに跛行してしまうのでこの点にかなり注意して乗りました。

僕がやったことと言えば簡単に言ってしまうとこれだけです。余計なことはせず、基本的に忠実に乗り、当たり前のことを当たり前にできるようにする。そのためにはもちろん様々なことをやるのですが、特に意識していたことを一つだけあげておきます。それは、馬を後輪駆動にするということです。後肢を動かして、それを受け止めてパワーをためる。このことによって馬はエネルギーを使いやすくなり、動きがダイナミックになります。さらに、人間の前で動くようになることでコントロール下に入るようになります。

次に、夏の合宿について書かせていただきたいと思います。全日学の二ヶ月ほど前から一ヶ月間、兵庫県にある大浦牧場さんに合宿に行かせていただきました。今年、全日学が三木ホースランドパークで行われるということで、馴致も兼ねての合宿です。最初、スベは見知らぬところに行ったときにどうなるのか心配でしたが、行ったときにはもうほとんどおどおどすることもなく、狂ったようになることもありませんでした。野外馴致でもほぼ問題なく、自分でも驚くほど順調でした。合宿中は大浦さんに騎乗を見てもらい調整を行ってもらいました。また、馬場に関しては瀬理町さんという方に見てもらいました。やはり、プロは違うなあ、というのが率直な感想です。見てもらっていると馬がどんどんよくなっていくのがはっきりと分かります。お二方には全日学本番でも見てもらい、入賞できたのもそのおかげだと思います。

現在強豪校ではプロが集まって指導されており、さらに馬のレベルも相当高く、そういう大学と勝負するためには自分たちの力だけでは到底かなわないと思われれます。変なプライドは捨て、人に頼ることも必要だということを実感しました。もちろん、頼るにしても、最低限のレベルに無いとどうにもならないし、頼るだけでは自分の成長につながらないことは言うまでもないとは思いますが、それだけ注意していればどんどん頼っていくべきではないでしょうか。この合宿だけではなく中野さん、戸本さん、白井さん、岩谷さんなどたくさんの方にも見ていただきました。そこで得たものは今回の結果の土台となったことは間違いありません。北大は監督やコーチがおらず、現役が自分たちで考えて活動していくという現状で（このこと自体はよいことだとは思いますが）、全日学で上を目指すためにはプロの力を借りることが、今後いかに重要かが分かりました。

最後はスベと直接は関係のない話になってしまいましたが、お許しください。

次もスベを担当させていただくことになっているので、より良い成績を残し、下につなげられるように練習して参ります。

## ◆北柁(サクラロイヤル)◆



セン サラ 栗毛  
平成13年4月9日生  
北海道静内郡静内町産  
父 サクラローレル  
母 サクラユスラウメ  
平成18年6月24日入厩

柳 田 睦 仁

今シーズンの成績は

北日本学生 障害 第5位  
                  総合 第7位  
全日本学生 障害 第55位  
                  総合 耐久審査失権

というものだった。予選会に初めて出た年でここまで出来て良しとする人が大半だと思うが、正直もう少し出来たのではないかと思う。いままで100cm程度の経路しか要求されなかった馬が1年間で130cmの経路を帰ってきた(クリアしたわけではない)のは立派だと思うが、全日でノーザン以外でもテンぱることを覚えさせてしまったし、おまけに耐久は失権させてしまった。このままでは競技馬として呼ぶことが出来ない上にこのまま北大でやっていけるか考えるとまだわからないと思う。それを踏まえて今シーズンの反省と今後の展望について書いていきたい。

普段の練習について。Fwはほぼ並足と速足で二蹄跡運動中心に行い脚反応と口向きをよくし、馬体を柔軟にしていくことがメインだった。しだいに3課目B程度の速足運動ならハミを受けて丸いまま運動できるようになった。7月頃には調教審査を見据えて反対駢足の練習をかなりしつこくやった。反対駢足をやるときは人が座りを間違えないこと。これができるようになると左右の差がなくなり整うのと同時に、馬がハミをかんでくるのが分かった。12月に札幌競馬場で行われたJRA馬事公苑所属の戸本一真さん・佐渡一毅さんクリニックの際に馬事公苑でも障害・馬場関係なく反対駢足は必ず運動に取り入れると聞いた。北大のレベルでは反対駢足のあと必ず踏歩変換が出来ることを確認するべきだと思う。北日前に反対駢足をしつこくやりすぎたせい

で二走と耐久では完全に弊害が出た(右肩を張る癖がもろに出た)ので試合前はほどほどに。まず馬をまっすぐにできること。これが基本である。あくまで障害の準備運動の一環でありそれが目的ではないという事を人が認識できていなかった。また下級生の練習時に少しでもハミ受けが向上するようにサイドレーンやバランシングレーン?を装着した調馬索を行った。その結果多少は馬体に柔軟性が出たと感じているが正直言ってまだまだだと思う。

障害に関しては週に二回のコンビネーションとバウンス、週末の経路周りがほとんどであった。バウンスは馬の筋トレのため、コンビネーションは人と馬のトレーニング、経路周りは人の試合感覚の育成が主な目的であったが今振り返ると馬なりであまり効果的ではなかった気がする。

野外馴致は畜大馴致とノーザンの大会ごとに野外をやった他は北大の第2農場に障害をおいて飛んだりした(夏以降はできなかったが…)。新緑でのノーザン馴致と畜大馴致は前年に出戸さんにしっかり馴致していただいたおかげでほぼ問題なかった。問題が発生したのはそれ以降でバンケットや水壕飛びおりではかなり反抗された。それまで馬が自分で飛んでくれていたことをいいことに野外障害の飛ばせ方を分かっていたと思う。これは全日のカフィンでの反抗につながっていったと感じている。

以上からFwは進歩したが障害や野外はあまり進歩していないというのが今の実感である。

試合についてはロイヤルの過去の歴史から、ノーザンでは朝運動した後既舎にしまい出番前に必要な時間のぎりぎりを出して極力準備馬場にいる時間を少なくする作戦をとった。これはノーザンで毎回試合があり全日もノーザンである場合はいいかもしれないが、馬に働きかける積極的な考えではなかったと今は思う。馬がバタバタしたときにどうするか引き出しがなかった。そんな状態で三木へ行ったのだから準備馬場ではバタバタでどうしようもならず人も馬も全く試合に集中できる状態にならなかった。それで二走は完全に手のうちから外れた状態で落としまくり、調教審査では主審の方に呼び出され耐久審査では馬の体力が残っていなかった。結局トレーニングでいくらい状態だったとしても試合場で馬をコントロールできなければ試合で結果がでるわけがない。それを強く実感した全日だった。

普通全日でこんな状態にしてしまったら乗り替わるのが当たり前だと思うが、来年も乗せてもらえることになった。今年の反省から今後どうしていくかを少し書いていく。

全日後いろんな方にビデオを見ていただき自分で出した結論としては、トレーニングの時に出来るだけハミを受けた状態で低障害のライン(オクサーを主にした)をいろんな完歩でできるようになること、また単発障害をやる際もいろいろな形の障害(山



形や三段、スウェーデンなど)をとり入れることである。このようなトレーニングを取り入れると馬の操作性と柔軟性が増し、さらに人も馬も実戦感覚が身につくやすいと説明を受けた。また野外はもっと経験を積ませること。北大内で比べても本馬は圧倒的に経験値が少ない。バンケット上り下りなんて毎日やればいいし、農場で向かってすぐの障害の飛越練習はもっとやるべきだった(耐久審査の一番障害対策)。あとこれは人の問題だがもっと馬を動かせるようになること。自分から動かせてないので馬がわがままをする。出戸さんや山本さんが拍車をつけないでよく乗っていたが、馬の脚反応と人の推進力の向上によいかも。最後にビデオや写真を見てイメージトレーニングをもっとすること。何度も関西学生のビデオや耐久の写真を見たが全く足りていなかった。緊張しいは十分すぎるほどのイメージトレーニングをして事前の準備をしなければならない。

一年通して一番感じたこと。それは自分がいかに馬をコントロールできていないかだった。これがもう少し出来ていれば二走の落下は減り、耐久審査はもっとできたかもしれない。

最後になりましたがよく馬場に来て練習を見てくださり野外馴致についてきてくださった高島さん、海道さんありがとうございました。特に高島さんは忙しい中週末に乗っていただき、いろいろなアドバイスをいただきました。また北日や全日の際にいろいろ支援してくださった山中さんにはとても感謝しています。そして全日でロイヤルが完走して特に喜んでくださった林さん、谷山さん、村木さんにとっても勇気づけられました。あと秋自馬で野外馴致を指導してくださった出戸さんには馴致を通していろんなことを教えていただきました。あの秋自馬の馴致がなかったら耐久を完走するなんて想像すらできなかったと思います。本当にありがとうございました。

そして3月に約7年間北大馬術部を様々な形で指導してくださり、時には部員の相談にも快く乗ってくださった貫名さんが札幌を離れます。自分も毎朝見に来ていただき何度も自宅におじゃまさせてもらいました。本当にありがとうございました。

二走・総合で団体・個人入賞。これが至上命題だと思って一年間やっていく。

◆北凜（ネイチャーヒーラー）◆



セン サラ 栗毛  
平成10年4月11日生  
アメリカ産  
父 Valiant Nature  
母 Mintullah  
平成18年9月18日入厩

山 川 晃 平

コンビを組んだのは、5月の半澤杯からでありました。

このころからずっと野村兄に練習をみてもらっていたのですが、野村兄、そしてネイチャーが毎日毎日何かを教えてくれ、一鞍一鞍が本当に重かったです。ここで実感したのは、できるだけ早く自分がネイチャーに追いつき、一緒に成長していける段階までいかなくては、ということでした。乗り方としてはできるだけネイチャーの邪魔をせずに2ポイントか軽いシートでまわることを心がけました。

問題がでたのは新緑のときでありました。

初めての野外馴致でした。過去二年耐久審査で失権しているのもあり、不安視はしていましたが自分の実力もあり、散々なものでした。ネイチャーが飛べると認識しているものは全く問題なく飛べ、苦手とされてきた穴に関してもそれまでの馴致の成果で克服されていました。しかし、横幅の小さい簡単に左右に逃げられるような小さい障害では、それを障害と認識できないのか、全く飛ばせることができませんでした。それに加え、そういった失敗が一つあるともうネイチャーは飛ぶ気をなくし、厩舎の方に行きたがり、不動になったりしました。

このころからやっと本当の意味で自分はネイチャーのチーフになったように思います。

3年前の山川兄の部報にありました。「僕たちのような技術が足りない乗り手であっても、馬と心を通わせようとする努力でその不足分を補える」それから手入れや曳き馬に対する意識がかわり、自分に時間が許すかぎりネイチャーと接し、ネイ

チャーが何を考えているのか必死に考えました。このころから曳き馬馴致を始めました。曳き馬で速歩で簡単な障害を飛ばして、褒めてを繰り返しました。調教上は絶対よくないことでしたが、逃げられたり、止まったりさせてしまうこともありました。しかしそうやって試行錯誤しているうちにネイチャーとの会話がすこしずつできるようになったと思います。そこからその会話が少しずつ乗っている間でもできるようになってきました。馬が緊張している、気持ちよく走っている、集中力を欠いている、そういった馬の気持ちによく気を配りながら毎日乗りました。経路中はとにかく馬が気持ちよく走ること、そのために人は精一杯邪魔しないように、その中で人の指示に集中させる、そういった意識でまわっていました。

それからは大会ごとに出場クラスも順調にあがっていき、北日をむかえるまでにネイチャーとしては初めてMCを完走しました。野外馴致も少しずつ成果をあげていきました。毎大会、本当に野外馴致は精一杯行いました。北日本の人馬で一番あのノーザンの野外コースにいた時間が長いのは、僕たちだと思います。

乗り代わった頃は本当にここまで順調にクラスを上げていけるとは思っていませんでした。もともとネイチャーヒーラーという馬はスペリオールやロイヤルに比べ飛越能力がないとされてきて、完全に総合一本に目標を絞った馬で、二走につかうなどは全く考えられていませんでした。しかし、北日の直前、ネイチャーの調子がよかったのと、北日本の二走の枠が確実にあまるので、二走、総合両方に出場することに決めました。

そしてむかえた北日。二走は、本当に気持ちでまわってきました。落下は全く考えず、目の前の障害を何が何でも飛び越す、野外コースをまわってくるような感覚でした。見事、無反抗で完走することができました。ネイチャーが初めて権利を獲得しました。今までネイチャーを調教してきた先輩たちの努力が報われたことが、とても嬉しかったです。

続く総合ですが、前にも述べたように、野外馴致は誰よりもしたという自信がありました。全く飛べなかった小さな障害も克服しました。コースもつなげてまわってあります。それでも完走することができませんでした。バンケットのおりるところで三反抗でした。ネイチャーヒーラーという馬は頑固な部分があり、一度怖いと思ったものは意地でもいかなのような部分があり、それは馴致の時から、もっと言えば下級生で下付きをしていた時から感じていました。問題はネイチャーが降りるということを手として、怖いと思っているということに気付いていなかったことです。あとから木村兄に聞いたのですが、前の年の福島の野外馴致のときでも、バンケットをおりるのでかなり苦労したそうです。乗り代わってからの馴致でバンケットの飛び降りでは一度も反抗したことがなかったため、何も意識していなかった僕は、本番でバン

ケットをのぼったところで少し気をぬいたのかもしれませんが。それで人がつつこんで、拒止してしまい、落馬しそうにもなりました。それで完全におりにことに恐怖したネイチャーを、いかせるだけの力もそのときの僕にはなく、三反抗となりました。本当に悔しかったです。そのときの自分にできる限りのことをしていました。やれるだけ馴致しました。直前まで二走にでることは考えていなかったもので、ずっと野外のことばかり考えてきました。シーズン開始からずっと目標にしてきたことが達成できず、二走で権利をとれた喜びもかき消されました。

それからは何とか気持ちを切り替え、全日の二走に向けて調整していきました。苦手としていたトリプル障害の練習、右によれるクセをなくすように、そしてバスキュールの改善や障害の根元まで踏み込ませるように組んだコンビネーションも多く取り入れました。そうしてネイチャーの飛越姿勢はとて改善できました。馬にも自信がついてきました。OB戦では120cmの経路を一落下で完走でき、人にも自信が出てきました。

そうしてむかえた全日二走。一走目は3番障害でいきなり幅のあるオクサーがきて推進が足らず拒止。それから練習していたトリプル障害はきれいにクリアしたものの所々にある大きなオクサーでひるみ障害を壊しながらまわるしかなく、中々リズムにのれず後半のダブルで二回目の拒止。二走目はトリプル障害の途中で右に逃げ2反抗。人も馬も実力不足を痛感しました。しかし本当に学べたことは多く、試合にむけての馬の調整の仕方から、長距離輸送、慣れない場所での馬体管理、緊迫感あふれる練習馬場、そしてあの大舞台を経験できたことは、自分の中でかなり生きています。こうしてシーズンを振り返ってみるとやはり失敗ばかり目立ちますが、ネイチャーヒーラーはまだまだ成長するはずです。これらの失敗をふくめた全ての経験を来シーズンに活かし、さらなる飛躍を目指します。

最後になりましたが、シーズン中ずっと指導していただいた野村兄には、深く深く感謝します。全日までいけたのは本当に野村兄のおかげです。来シーズンは野村兄も山川兄も札幌にいなくなり、不安で仕方ないですが、今まで教わったことを活かして、全日で二走総合入賞を目指します。今まで本当にありがとうございました。

## ◆北菓（ログキャビン）◆



セン サラ 栗毛  
平成8年3月8日生  
アメリカ産  
父 Woodman  
母 Great Christine  
平成21年9月15日入厩

## 江口 遼 太

代替わり後11月から約1年間ログキャビンに乗せていただき、最終的に当初からの目標であった北日総合に出場することができたことは自分にとってとてもいい経験になりました。この1年間は調教というよりもログに乗って自分が成長し、それを少しでも馬に還していけるようにとやってきたので、その過程と馬の特性について書かせていただきます。

冬の間は正反撞や蹬上げで騎座と脚を意識して馬との関係づくりを行い、同時にコンタクトを安定して取って出来るだけハミを受けるように運動しました。シーズンに入ってからは障害も含め自分と下級生の練習に多く使いました。最初のうちは基本的に馬を充分動かすことが出来ず、特に障害の経路ではそのせいで反抗されることが多々ありました。半澤杯と新緑では100cmクラスを失権し、馬が障害に対して嫌なイメージを持ってしまう結果となってしまいました。そのため、その後は馬をしっかり動かすことと低い障害を出来るだけプレッシャーをかけずにとばせ、障害に対する悪いイメージをなくすように練習していきました。実際、地道に低い障害を続けることで障害に対する反抗は少なくなっていき、北日前の7月にはLAの経路はまわれるようになりました。一方で馬を十分に動かし、さらに抑えられるようになったのは北日の直前でしたが、北日総合ではなんとか完走を果たすことが出来ました。

次に1年間ログに乗り、北日総合にも出させていいただいて感じたこの馬の特徴について注意すべきと思う点を馬場・障害・野外に分けて以下にまとめます。

まず馬場についてですが、基本的に反撞が大きい馬なので騎座を深くして安定して乗れるようにする必要があります。また、拳を強くし過ぎると反抗してハミを外してしまい最終的に駈歩では走ってしまうので、その点に注意しつつしっかり動かしてい

けば馬場でも点が取れると思います。

障害に関しては基本的にあまり前向きな馬ではありません。ですから普段はあまり高くない障害を十分にコントロールしながらとばせて馬に自信を持たせ、高い障害は主にコンビネーションで練習していけばよいと思います。また、障害の経路ではエンジンがかかってくるのが遅い傾向があるので、前半は少し押しながら動かしていき、動いてきたらそれを抑えつつコントロールするというイメージで経路をまわっていました。

野外に関しては大会のたびに馴致を行いました。障害をとんだ後や長い障害間は走ってしまうので、ある程度それを抑えられる必要があります。さらに、走ったままやそれを抑え込んだ状態で障害に入ると反抗することが多いので、障害前は抑えた状態から脚と拳でしっかりロックし、押し込んでいかなければならないと思います。

最後に馬の性格としては飽きやすくカッとしやすいところがあり、練習でも走りやすく一度スイッチが入るとなかなか収まらないこともあります。しかし、丁寧に乗ればきっちりと運動して乗り手が成長でき、体も丈夫なとてもいい練習馬です。自分もこの1年間ログに乗って成長できたことにととても感謝しています。これからもログが練習馬として多くの下級生を育てるとともに、総合などの競技面でも活躍していつてもらいたいと思います。

## ◆北焰（ファイアマリオ）◆



セン サラ 黒鹿毛  
平成6年3月25日生  
北海道白老群白老町産  
父 トウショウマリオ  
母 アンバーエルン  
平成21年10月31日入厩

## 江口 遼 太

まず、自分がファイアマリオに乗ることになったのは7月のことでした。基本的な馬の状態の維持は平芳が乗り、主に常歩で馬体をほぐすことを中心におこなっていました。この馬に関してはかなり高いレベルの調教ができており、自分が乗ってやったことといえばいかに馬の邪魔をしないように乗れるかという人の練習だけでしたので、そのことに関して少しだけ書かせていただきます。

馬の状態として足が弱く運動しては跛行するという繰り返しであったため、主に常歩でハミを受ける練習を行いました。速歩・駆歩・障害は確認する程度で、公認大会のLAで経路をまわって北日に臨みました。そんな状態でも北日・全日と二回走行を完走することが出来たのは、馬の障害に対する前進気勢と経験に助けられた結果でした。前進気勢があり、繊細で足が弱いということから、まずは馬の邪魔をしないこと、そして障害飛越後にいかに素早く馬の状態を起こせるかということが重要であると感じました。また、問題点としては十分な運動が出来ないため筋力や体力が落ちて、二走目になると前進気勢が弱まり足が上がらなくなってくるということがあると思います。

以上のようなことを書かせていただきましたが、マリオに乗っていい感覚を勉強させてもらったことに本当に感謝します。マリオに乗るために出来ることはとにかく少しでも上手くなることだと実感しました。体力・筋力を維持して少しでも長くマリオが競技で活躍できるように、また乗り手がそのマリオの力を生かせるようになればと思います。

## ◆チェリーアドミラル◆



セン サラ 芦毛  
1993年4月22日生  
様似郡様似町川辺牧場産  
父 サクラユタカオー  
母 チェリーユミコ  
平成22年8月1日入厩

### 宮田昇太

今シーズン初めてチーフとしてチェリーに乗せていただくことになりました。部活内のトラブルを乗り越えて、5月という少し半端な時期からの乗り代わりとなったこともあり、その分不安と期待が入り混じった状態で乗ることとなりました。目標としては、まずは練習馬として馬の状態の維持ができるように慶應馬術部のOBの貫名さんや帯広馬術部OBの鷺田さんなどにご指導いただき、チーフとして必要な知識、技術、経験を積んで、来シーズンにつなげられるよう実力をつけることと思い練習をしました。

チェリーは、調教の進んでいる古馬ということもあり、チェリー自身に教えてもらうことが多かったと思う。毎日のように貫名さんに指導してもらいながら、貫名さんにできて、自分にできないことの多さに葛藤していた。一癖も二癖もある馬で、初めは輪乗りの維持から始まって、自分の騎座、姿勢、バランスを正しくすることを中心に練習してきた。そうする中で、自分とチェリーの基本的な信頼関係を築いていこうとした。なかなかFwの質を上げることができず、落ち込むことも多かった。ただその時にしっかりと自分自身で考え、足りない部分は聞いて学ぶ姿勢がこのときにしっかりと身についたと思う。騎乗しているとき以外の時間をいかに活用するかの大切さを学んだ。そして、苦勞した分成功したときの感動は大きかったと思う。昨日より今日、今日より明日、明日より明後日、日々前向きに取り組んでいたのが良かったんだと思う。

大会では、前のチーフの山川に協力してもらいながら、新緑ではLA出た。馬なりに回ってきた形となり、経路周りの難しさを実感した。馬をしっかりとコントロールして回る実力がないことは分かっていたので、馬のジャマをせず、馬が気持ちよく経路を回ってこれるように乗ることを心掛けていたが、随伴など飛びについていけない部分や回転、誘導がうまくいかずライン取りがうまくいかないことも多かったと思う。また、落下による減点も多く、馬体をもっと起こせるようにしなければと



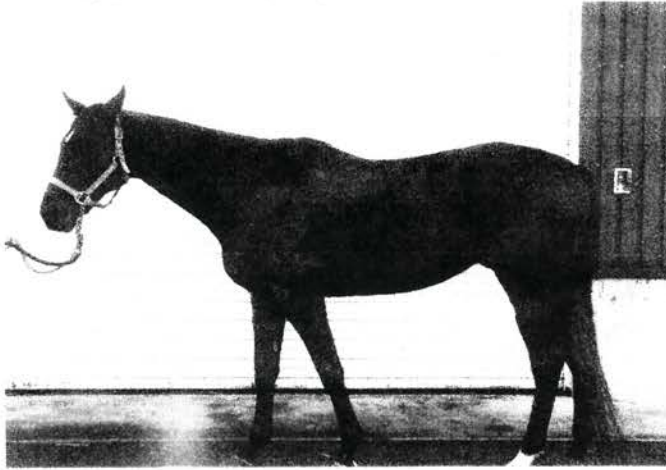
思った。下級生では、LC、LBと難なく余裕もうかがえる感じで回ってきたので良かった。自分の不十分な下乗りであっても、チェリーの「障害に向けたら飛ぶ」というけな気な性格があったので、チェリーに助けられる結果となったと思う。

その後は、LA,MDと経験を重ねて北日学では二走に出た。実力が不足していることは分かっていたが、チェリーがどこまでいけるのかという思いもあってエントリーを決めた。結果は、フレンドリーでは水郷で何度も反抗され、馴致不足を感じ、二走では3番、5番障害で2反E。経路を回りきることができず、チェリーに負担をかけるだけの結果となってしまう、非常に悔しく、自分の実力不足や認識の甘さに落胆した。馬自身には実力があったと思うし、人としては悔いしか残らない結果となったが、この失敗の経験を大切に、来シーズンに生かしたいと思う。

4か月足らずの短い期間、試行錯誤を繰り返し馬と向き合った日々は一瞬で過ぎていったと感じる。この間にチェリーのことが本当に好きになったし、部活に対し本気な自分が再認識できて良かったと思う。このモチベーションを次のシーズンにつなげていけるようにしたいと思う。また、現役部員を含め、OBや様々な人に協力してもらおう中で今の自分が築けたと思います。協力してくださった方にこの場を借りて感謝の意を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。

チェリーは現在18歳と高齢馬だが、来年も練習馬として頑張ってもらいたいと思います。下手な自分が乗ってもLA,MDまでを回ってこれるし、この利点を生かしてこれからも大切にしていってほしい。下級生の経路周りの練習として、北大でもノーザンでも安定して回ってこれると思います。今後競技を狙っていく部員たちを育てて、彼らの自信ややる気につなげていける橋渡しとして、チェリーが活躍していくことを期待しています。

◆北鳳(ヤスノインディアン)



セン サラ 鹿毛  
平成8年4月29日  
三石町元道牧場産  
父 ダイヤモンドジョール  
母 ヒカリハード  
平成13年12月2日入厩

速水 秋

北鳳号は練習馬としてLAで使うことを目標に、練習を行ってきました。元々調教の進んでいる馬であり、人が教えてもらう事ばかりでした。

足場の悪い冬場は肩の跛行が出てしまうことも多く、OBの吉村さんに見ていただきながら、速歩を中心に人の姿勢の改善を行いました。人が必要以上にバタつき、脚が安定せず、拳を切り離して使うことができていないことなどが課題だったので、正反撞でバランスを保ち静かに乗りながら扶助を出せるよう練習を行いました。

雪が解けてからは障害練習を開始しました。人の随伴が安定せず、馬の邪魔をしてばかりだったので、コンビネーションを練習に多めに取り入れ、随伴姿勢の改善を行いましたコンビネーションには、低めの障害に物を入れたりして、馬の物見対策も合わせて行っていました。また、この頃は馬を動かしているという状態を人が分かっておらず、馬が勝手に早くなったり、逆に動いていない状態で障害に向かってしまったりと、馬をコントロールできていない状態でした。特にこれは、ノーザンなどの試合会場ではっきりと表れてしまいました。練習馬場で他の馬が多い時は、対向馬に対して驚いて走るなど、人の指示を聞かなくなってしまう場面が多くありました。こうなってしまった時に、馬の意識を人に向けさせることができず、バタバタした状態のまま障害に向かい走られてしまうこともありました。

試合中も馬のテンションが上がって走られ気味になり、人がペースコントロールをできていないのが如実に表れる走行となってしまいました。LB、LCは走りながら帰ってこられても、LAは飛ばないような状態でした。人がペースをコントロールできなくなると、引っ張り合いになってしまい、拳で引っ張りまわし、姿勢も崩れてしまうので、更に悪循環に陥ってしまいました。そのため、練習ではまず、馬を元元よく動かし、その状態で歩度の詰め伸ばしが自由に行えるよう意識するようにしました。馬を一通り動かし、前肢旋回、斜め横歩、輪乗りの開閉などでどンドン馬を動かし、脚にしっかり反応しているか確認し、勢いで走っているのではなく、人の脚で動かしているかどうか確認するようになりました。障害を飛ぶからといって闇雲に前に出すのではなく、フラットワークの延長で飛べるように、という意識で準備運動をすると、これまでに比べ、良い状態で障害に向かうことができま

した。障害練習では、元気の良い状態で向かい、障害を飛んだあとはバランスを起こし、ラインに乗せてきれいなアプローチを心掛けるなど、基本的な事を守るよう練習しました。

このような練習のおかげか、公認大会の1日目のLBでは、貫名さんに準備運動を見ていただきながら、アクセル、ブレーキを意識した練習を行い、馬をコントロールしながら良いペースで回ることができました。2日目はLAのS&Hに出場しましたが、人が高さを意識して馬をどんどん出してしまうというミスのおかげで、後半でラインに向けきれず、一反抗されてしまいました。

馬場では三課目に何度かエントリーしました。最初のうちは馬が前にのめってきていて、引っ張り合いになってしまい、姿勢がとれず、下方移行もきれいにできなかったのですが、拳に頼らずバランスバックや内方姿勢を丁寧にとることが分かってくると、バタつきは改善されるようになりました。

また、岩谷さんクリニックを受講させていただける機会があり、そこで横木を使って馬をしっかりコントロールする運動を教えてくださいました。この練習は馬が脚に従っていないと上手くいかず、扶助に従っているか確認するのに良い方法だったので、北日までの練習でも取り入れるようにしました。また、クリニックで物に対して馬が怯んだときにどのようにすればいいか相談したところ、ラインの前半はしっかり詰めて後半は伸ばすようなイメージで障害に向かうと良いとアドバイスを受け、物を置いたラインを使ってこれを意識した練習を行いました。

北日ではLAにエントリーしましたが、馬が速くなるのをまた抑えられず、水豪で二反抗失権という結果になってしまいました。良いペースでの経路走行はシーズンを通しての課題だったのに、それが達成できず、後悔の残る走行となってしまいました。馬自身は100cmクラスであれば十分帰ってこられる実力があるのに、人の技術が足りずにこのような結果になってしまい、本当に不甲斐なく思っています。

以前から慢性的に続いていた肩跛行ですが、今年も足場の悪い時期や障害練習後などに起こってしまいました。ストレッチや水冷などでの改善を試みていましたが、重要なのは、障害練習の前に馬をしっかり動かして体をほぐし、練習時間を無駄なく短くする事だと思います。練習馬として使うに当たっては下級生をできるだけ乗せる必要があり、チーフは最小限の時間で下乗りを終えるべきなのですが、うまくいかずに練習時間がだらだらと伸びてしまったのは本当に申し訳なかったと思います。馬自身は下級生でも乗りやすく、LB, LCクラスであれば、下級生を乗せて安心して回ることができるので、跛行にさえ気を付ければ非常に良い練習馬であると思います。また競技馬として活躍できる可能性も十分ある馬なので、これからも末永く活躍してくれることを願っています。

最後に、お忙しい中練習を見て下さり、貴重なアドバイスをたくさん下さった吉村さん、貫名さん、支えて下さった皆様に深く感謝申し上げます。1年間チーフとしてやっていくことができたのは皆様のおかげです。そして毎日頑張ってくれたヤス、本当にありがとう。ヤスと共に過ごした1年間は本当に充実していて楽しいものでした。これからも馬術部で幸せに生活して下さい。

## 入厩報告

### ◆ビービーバンス◆



ヒン サラ 黒鹿毛  
平成18年4月23日生  
北海道日高郡新ひだか町産  
父 エイシンサンディ  
母 エイシンデンバー  
平成24年9月26日入厩

### 平 芳 悠 人

ビービーバンス号は白井牧場さんから今年の夏に入厩しました。北大では久しぶりの牝馬です。牝馬らしい牝馬で、扱いが難しいですが、その分面白みもあります。現在は私が担当させていただいています。今後の活躍に期待したいです。

## 入厩報告

### ◆ラショウモン◆



セン サラ 鹿毛  
平成20年4月7日生  
新冠町須崎牧場産  
父 スニツツエル  
母 ベリンベルノ  
平成23年11月14日入厩

### 山 川 晃 平

ラショウモンは白井牧場から、練習馬にしてはどうかと言われ入厩しましたが、物怖じしない性格で前向きに障害に取り組んでくれるので、将来は総合馬として活躍してくれるのではないかと考えています。とても若い馬なので、成長が楽しみです。

## 北翔号離厩特集

### 10年後の贈り物

中 田

2012年12月28日、博多の地で馬術部OBの同窓会を兼ねた忘年会を行いました。北翔号ことシンコウブラウン号の初代チーフの前野弟が原稿を書かないと宣言したこともあり、そのときの会話をもとにして、シンコウブラウンのことを振り返ってみたいと思います。飲みの席での会話なので、記憶は厳密ではありませんし、むしろ脚色されているところは、ご容赦いただければと思います。

シンコウブラウンの入厩からの経緯について説明すると、(当時)浦河高校馬術部の顧問であり、馬術部のOGである米家姉から馬術部にお話をいただき、現役の最上級生から、当時3年目になる直前の前野弟との人馬をセットで見てほしい、という依頼を受けました。

2003年1月19日に馬術部に入厩して以来、そこからは馬体を心配しながらの薄氷を踏むような練習が始まりました。それは比喩でもあり、そうでなくもあり、たとえば、いきなり騎乗するのではなく、調馬索をしたところ、それまでは冬場の練習は覆い馬場でしかしたことがなかったシンコウブラウンは、初めてに近い雪の上での練習でうまくバランスが取れず、暴走してしまうこともありました。OBとしての当時の自分の役割は、運動管理責任者を任されたといっても、たとえるならば、コーチというよりも家庭教師のようなものであり、いかに自分の騎乗する時間を少なくして、馬体に負担が掛からないように練習を組み立てられるかが、大きな課題でした。そんなことを振り返りつつ、飲みの席での話は進みました。

中田：シンコウブラウン、名馬だったな。

前野：良い馬でしたね。

中田：どうして部報の原稿を書かないんだよ・・・

前野：・・・・・・

尾崎：自分でさえ、北彗号の特集号には原稿を書いたんだぞ。

中田：それは、尾崎は、ノーザンホースパークで開催された北日本学生の在札のときにも、派手に跳ねられながらも、しっかり初期調教していて、乗り手に恵まれたこともあるけれど、それがあれだけの結果につながったわけだから、当然のことだと思うよ。(記憶も大事だけれど、記録に残しておくことも必要だと思う。)

前野：・・・・・・

中田：でも原稿にまとめたくない気持ちも分かる気がする。自分も現役のときの

主戦馬だったファストバロン（北牙号）の調教報告は、安易な気持ちで文章にまとめたくなかったから、当時の馬付きだった大崎弟に書いてもらった。卒部してからすぐのときとか、ずいぶん時間が経ってしまうと、文章にまとめることで色褪せてしまう気がする・・・（でも原稿に向き合うことで、大事な馬のことを思い出すことにつながるから、それはそれで良いようにも思う。）

中田：ちょっと部報の原稿で書こうとしていたプロットがあるから聞いてくれる？

前野：・・・なんですか？

中田：Mr. Children のGIFT という曲がある。2008年北京五輪のキャンペーンソングなのだけれど、一番きれいな色ってなんだろうってフレーズがある。五輪だからメダルの金銀銅もそうだけど、肌の色もあるだろうし、馬術で言えば、ブルーリボンとか、レッドリボンとか、それぞれあると思うけれど、この曲を聴くと、いつもシンコウブラウンのことを思い出す。GIFT には贈り物という意味だけでなく、資質とか才能という二重の意味があるし、馬術部にとって、もちろんシンコウブラウンは大きな贈り物だと思うとともに、なかなか巡りあうことのできない類まれなる資質を持っていた馬だと思う。そういう名馬に携われたことに感謝します、ってネタなんだけど・・・

前野：いいんじゃないんすか（笑）

中田：シンコウブラウンは、それまでの北大の主戦馬とは、全然乗り方の意識を変えないといけないからたいへんだっただろうな・・・

前野：そうですね。それまでのスズロード（北鈴号）とはまったく別の馬でしたね。

中田：シンコウブラウンは、馬体、特に右後肢に問題があっただけでなく、銜を支点に頼ってくるところがあるから、それを外してしまうと、走り方がばらばらになってしまうところがあっただし、学生馬術の枠組みでは、練習の組み立て方や試合の選び方がとても難しく、苦勞したように思う。それに、ちょっと強い運動をしたら、馬自身が頑張りすぎてすぐ翌日には破行してしまうから、外乗だけの日とか、上級生にもなって調馬索でしか練習できないときもあっただし、しかも速歩だと馬体の問題でイレギュラーな歩様になってダメージが残るから、駆歩であえてゆったりとしたリズムで乗り手の騎座を安定させる練習をしたり、練習を制限して、我慢させないといけないところがあったから申し訳ない・・・よく（馬優先の）あんな練習で我慢してくれたと思うよ・・・

前野：中田さんだったから我慢したんですよ（笑）

中田：それでも、あのときの基礎的な練習がなかったら、翌年の全日学への出場はなかったと思う。ただ、やはりもっと手綱を握った練習や試合に近い実践的な

飛越練習をしたかっただろうし、その不満があるのは分かっていたけれど、馬体のことを考えたら、どこまで攻めて練習してよいか手探りの部分があった。だから段階的に練習も試合のレベルもローリスクローリターンで上げて行くようにして、3年目の北日学の時までは、それなりに理想的に運べていたと思う。でもあの年は、なぜか北日学でいきなり競技レベルが上がり、確か北大では、リーズンと高島弟のコンビしかゴールできなかつたくらいだった。予測が甘くて申し訳ない……

前野：……………

中田：それから、やはり米家姉に来ていただいて、実践的な練習をすることは必要な過程だったと思う。それまでは自分から動かしていくというよりは、跨っていることに一生懸命で、能動的に動かすということは強く意識した練習をできなかったから、あのときのクリニック的な練習は大きな転換点だったと思う。そのときに学んだ、自分から動かしていく意識が、林から山本に至るまで引き継がれていて、その後の成功につながったのだと思う。実際に、前野から聴いた言葉とまったくおなじ言葉を山本から聴いたことがある。

前野：そうなんですか……そうですね、あの自分から動かしていくという感覚がないとシンコウはうまく動いてくれないですからね。

中田：シンコウブラウンも良い意味で、JRA で高橋先生に調教された馬から北大仕様の馬になっていったところがあって、林の努力でかなり乗りやすくなっていった反面、全盛期の前進氣勢やパワーはすでになくなりつつあるのに、それまでのイメージ先行で成績を求められていたから、乗り難いところもあったと思う。ラストの試合の山本の一走目のリズムとペース、落ち着きとか雰囲気は、これまでの歴代の乗り手の試合の中でもベストに近いものがあったと思う。厳しい結果だったけれど、あの状況で良くあそこまで頑張ったと思うよ。

前野：そうなんですか……北大仕様になっていったんですか……良くいまだに、現役のことを把握していたり、話ができますね。

中田：それは、前野と一緒にシンコウブラウンで練習していたときに学んだことを、当時の現役（山本弟）に伝えたら、結構伝わることもあって、それからまた現役と話ができる機会ができたんだよ。リズム脚と推進脚の関係とか、左手（内方）は添えるだけとか、リズムとバランスとか、同じ馬に乗っていた経験があるからこそ伝わる部分があって、それが伝わったことは自分にとっては良かった。シンコウブラウンが見つないでくれた関係だと思って感謝している。

前野：それはあるかも知れないですね。

中田：札幌じゃなくて、遠く離れた博多の地で、こうやって話ができるのもそのおかげだと思う。今年も来年に引き続き、七帝戦が九州大学で開催されるし、現



在は前野も自分もなぜかおなじ九州大学で働いているのだから、機会があったら応援に行こう。

・・・という雰囲気、話が進んでいきました。

尾崎夫妻とその長女が同席していたので、2時間くらいで、会もお開きにするはずが、気がついたら、あっという間に時間が経ち、22時をすでにまわっていました。忘年会の開催場所は、同期の主将を努めた中村晃史の義理のお母様の経営されている小料理屋で、小京都の趣がある落ち着いた雰囲気の良いところでした。おそらく誰も意識していなかったかも知れませんが、

店内に飾られた色紙には「凜」の文字があり、そこにもまた不思議な縁を感じました。

シンコウブラウンの与えてくれた大きな贈り物と大いなる資質に感謝を込めて



2013年1月11日

文責 平成8年度卒部 中田一紀

H19卒の林宣隆と申します。私は3年生の時に前野兄の後任として北翔号（シンコウブラウン）とコンビを組ませていただき、北日学で入賞、全日学にも出場させてもらいました。シンコウとの思い出を少し綴らせていただきます。

シンコウとの現役時代を振り返り、あれから早7年もの歳月が経ってしまったのかとしみじみしながらアルバムを眺めていると、シンコウは本当に写真写りがいい馬だなと改めて思いました。まるで自分が写真を撮られていることを分かっているかのように、厩舎にいる時も、試合であってもカメラ目線でパッチリとカッコよく写っているのです。思えばシンコウは本当に賢く、そしてかわいい馬であったなと思います。ボロは馬房の1カ所にまとめてしてくれるから掃除もしやすいし、怪我で運動量が少なく飼いを多くあげられない時も一切文句も言わず（当時シンコウの隣の馬房にいた芦毛の大食い馬は飼いが少なくギャーギャー鳴いていた）淡々と与えられたものを食べていました。それはさておき、シンコウの本当に素晴らしい賢さは、試合で何をすべきか分かっていたという競技馬としての優れた賢さでした。

私が前任の前野兄から乗り替わった2年生の冬、私は下手過ぎて練習でシンコウに走られてばかりでした。馬も徐々にのめってきて、怖がる私が前を引っ張って、また走られての悪循環となり、本当にこれでは試合にもならないと悩んでいました。しかし迎えた春、試合に行くとシンコウは準備運動から障碍までやるべきことが分かっているかのように体のバランスとテンションを作り上げ、乗りやすい状態で試合に挑んでくれたのです。もともとしっかりと調教のされた馬ということは分かっていたのですが、試合になるとこうも変わるものかと本当に驚かされたのを覚えています。そしてその賢さを最も強く感じたのが全日学でした。シンコウは北日学の後、肢の状態が思わしくなくあまり十分な運動ができないまま不安を抱えて全日学を迎えることになりました。そこでもシンコウは運動不足の不安と全日学初出場の緊張で一杯の私を横目に「馬事公苑は自分のホームグラウンド」（シンコウは北大に来る以前に馬事公苑の競技で大活躍をしている）と言わんばかりに、私が一番乗りやすい状態で最高のパフォーマンスを発揮してくれたのです。あの時の弾むような駈歩と、障碍の高さを感じさせない柔らかな跳び心地は一生忘れられません。そして第二走行の一走目、スタートから1番、2番、3番と順調に無過失で進み、4番、5番、6番・・・、何と最終ラインまで減点ゼロで通過してくれたのです。残すは連続障碍だけ！！しかし、一瞬夢を見た私は次の瞬間、最終障碍で落馬をしてしまいました。シンコウには本当に申し訳ないことをしたと今でも悔しく思いますが、それとともに心に残るいい思い出を作ってもらえることができ本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、今年の7月に久々にシンコウに会ってきました。相変らずシンコウのたてがみは茶髪のチリ毛でしたが、クレイドルファームの放牧場で幸せそうに青草を食べていました。体調も良さそうで、元気な姿を見て本当にほっとしました。シンコウは最高の競技馬でしたが、やっぱり青草を食べている時が一番幸せそうで、かわいいなと思いました。みんなに支えられ、これからも幸せに暮らしていてもらいたいです。本当によき思い出をありがとう！また角砂糖とりんごを持って会いに行くからね！！

## 北翔号の離厩に寄せて

野村基惟(平成21年卒)

私は、3年目から2年間、林兄や谷口兄といった指導者に恵まれながら、北翔号を担当させていただきました。コアなファンの多い馬で、今振り返ってみると馬付きの顔触れもいつも同じだったように記憶しています。

私にとって彼は、いわば“先生”に当たる存在でした。乗りながら馬に教えてもらうという表現が的を射ていて、良い馬とは、良い動きとは、という概念を作り上げてくれた馬でした。特に全日本学生の舞台では、ここが本番とわかっているかのように、決まって最高の動きを披露してくれました。彼と出場した2回の全日本学生の舞台は、馬術部生活の中で最も印象に残る瞬間となり、競技者としてのメンタリティをも刺激してくれたように思います。

4年目からは、当時新馬として扱われていた北凜号を担当する機会を得ました。その調教の過程でも、彼から教えてもらった感覚を最大限に活かしながら取り組んでいきました。その北凜が2走・総合とも全日本学生出場を達成してくれたこと、そして私が4年目であったときの1年目である山川がそれを成し遂げてくれたことは、非常に喜ばしいことです。

また北翔号は後肢に故障を抱えていましたので、いつ“引退”させるかが常に問題として挙がっていました。先に名馬エルグレイ号を疝痛で失ったこともあり、無事に離厩させること、これが卒部後の私にとって大きな命題になったように思います。結果的には、離厩のきっかけは怪我となってしまいました。彼にとっても、そして乗っていた山本にとっても、辛い経験をさせてしまったかもしれません。もっと早く離厩させるべきであったか、今でも答えははっきりしません。ただ、その後は様々な方の尽力があり、約束されていた場所であるクレイドルファームへ無事送り届けることができました。

今後も北大馬術部の中では、馬の出し入れが続いていくことでしょう。その中でも、馬1頭1頭には生き方があることを忘れてはならないように思います。北翔と出場した全日本学生大会が素晴らしい経験として心に残っているのと同様に、エルグレイの亡骸を馬運車で日高へと運んだ経験も忘れることはできません。馬という動物にとっての“Quality Of Life”という価値観を、彼らに携わった多くの人に認識して欲しいと思いますし、一度は北翔が余生を過ごしている姿（この表現が適切かどうかはわかりませんが…）を訪ね、馬場の傍に建つエルグレイの慰霊碑に対峙して欲しいと思います。1日1日、1頭1頭と真摯に向き合い続けること、このことこそ彼から教わった最も大切なことかもしれません。

# 北海道大学水産学部馬術部

4年 岡崎 遼太郎

## 【はじめに】

現在、北水馬術部は3年生7人、4年生12人、大学院生4人、総勢23人で活動しており、男女構成はちょうど半分ずつとなっております。平日は毎朝5時から授業開始前まで函館競馬場にて活動し、休日は朝9時から競馬場の少年団や一般の方々と作業を共にしております。本学と大きく異なる点は、自馬を持たないこと、大会に出場する機会が限られていること、練習は自由参加、の3点です。それぞれ得手不得手はありますが、「函館で馬に乗る」という大前提から派生した特徴だと思えます。

## 【新制度の導入】

平成23年度より「総合入試制度」が導入されました。本制度は、北水馬術部にとっては逆風であり、その影響は早くも部の運営に影響しております。従来の制度では、2年後期課程から函館へ移行し10月下旬には新入部員が入部しておりましたが、24年度からは3年前期から移行となります。そのため、移行生は例年よりも練習期間が減り、大会に出場できるころには就職活動や研究が忙しくなるため、十分な馬術部生活が過ごせなくなることが予想されます。さらに、これから慢性的な部員不足に悩まされることは避けられません。

## 【今後に向けて】

私はこの局面を打開し、北水馬術部を運営し続けるためには、人との交流を深めることが必要だと思います。勿論、北水馬術部における縦と横のつながり、OBの方々との繋がりは当然必要だと思いますが、その中でも北水馬術部の母体となる本学との連携は非常に重要です。本来は、同じ大学の集団であるなら活発に交流し、技術や知識を共有し合うことがあってしかるべきだと思うのですが、札幌—函館間の約300キロが前に立ちはだかり、なかなか思い通りにはいきません。その際、大事な役割を担うのが本学から移行してくる部員です。北水馬術部では、新入部員の入部時期が本学と比べて遅れるために、技術と知識を補う時間が不足しています。つまり、本学から移行してくる学生がいる年といない年とでは、技術や知識を補う人材の有無という点で部の運営状況が大きく異なります。近年は本学出身の学生が北水馬術部を引っ張っていく傾向があり、今後もその体制は変わらないと思います。いずれにせよ、函館キャンパスという非常にコミュニティの狭い中でもがいても、思い通りにいかないことが多いと思うので、本学との連携は勿論のこと、後輩には広い視野を持って部の運営に臨んでもらいたいと考えております。

## 【おわりに】

上記のような苦しい現実の最中に、素晴らしい吉報が函館に届きました。北水馬術部3年の和田茜妹が、北日本学生馬術女子選手権大会を優勝、さらに全日本学生馬術女子選手権大会では13位に輝きました。この結果は北水馬術部にとっても本学馬術部にとっても歴史的な快挙です。本学の馬術部だけが全国大会に出場し活躍できるという常識を覆すと同時に、北水馬術部の練習が間違った方向には向かっていないことを証明した瞬間でした。この戦績は、きっと今後の部員を勇気づけてくれることでしょう。

最後になりましたが、北水馬術部は今も元気に活動を続けております。練習がある日には、練習内容や部の概要を日々更新しております。これからも精力的に活動してまいりますので、今後とも北水馬術部をどうぞ宜しくお願い致します。

## 部員紹介

### ◆3年目



☆北兎号と西村姉



☆左から柳田兄、山川兄、江口兄



☆宮田兄とタマ



☆加藤姉



☆江口 遼太(主将)

全国制覇 僕が関大を倒します。

- ・江口カッター!!!
- ・江口シャッター!!
- ・ログとネイチャー間違えないでください。

☆加藤 亜也奈(主務)

「理不尽は人を育てる。」そう思い、日々頑張っていこうと思います。

- ・東京大学物語
- ・エロゲ好きですよね!?
- ・また飲みに行きましょう!

☆西村 英里(馬匹)

身長はあげません。長身の1年が入ってきて嬉しいです。

- ・お金分けてください。
- ・身長分けてください。
- ・成績分けてください。

☆宮田 昇太(後援会)

- ・髪短い人がタイプです。
- ・香料会社ですか!?
- ・僕に毛生え薬をください。

☆柳田 睦仁(副将)

全国制覇 僕は日大を倒します。

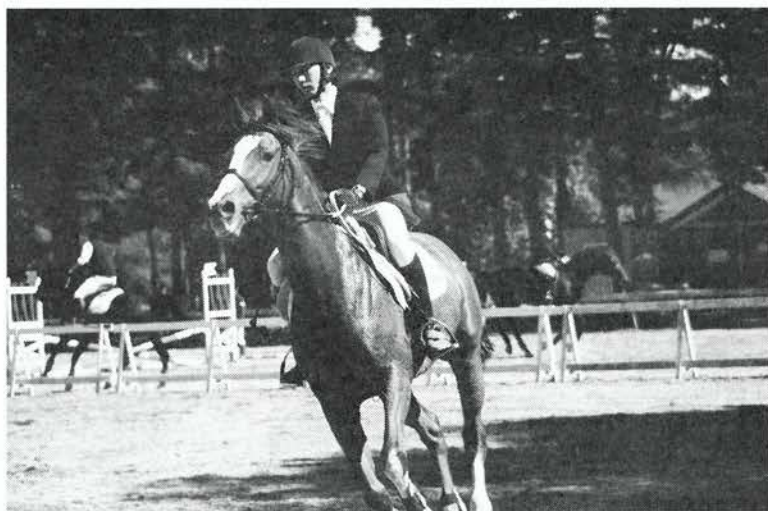
- ・波動拳! 古満「ぎゃあああああああああ」
- ・目はかっこいいです。
- ・部室散らかさないでください。(衛生より)
- ・靴下事件勃発! 反省するといいよ。

☆山川 晃平(蹄鉄・広報)

全国制覇 明治は俺が倒す。

- ・弟ができたね。
- ・アデランスに行こう。
- ・弄ばれてますよ？
- ・齊藤さんジャンパーを受け継いだ男。

◆2年目



☆北菓号と品川兄



☆高居姉



☆平芳兄



☆松尾兄

☆品川 雅彦(車両)

最近「祖父江さん」と呼ばれなくなりました。

- ・ごちそうさまでした!!
- ・今度は僕と一緒にセスナに乗りませんか?
- ・足大丈夫ですか?
- ・「みんなにとっては予習だけど、僕にとっては復習だから。」

☆高居 名菜(副務)

2年目に華をそえます。

- ・いつも僕のボケに笑っていただいて、本当にありがとうございます。
- ・自信ありすぎ。分けてくれ。

☆平芳 悠人(副将)

- ・1日10鞍の男。
- ・駿と古満のお父さん。
- ・もはや馬術部のお父さん。
- ・澤田が入ったね。

☆松尾 慧(北日副幹事長)

- ・ちゃんと報告しなさい。ほうれんそうだよ。
- ・5000円でシーソー食べに行きましょう!!
- ・GPA勝負負けません。

◆1年目



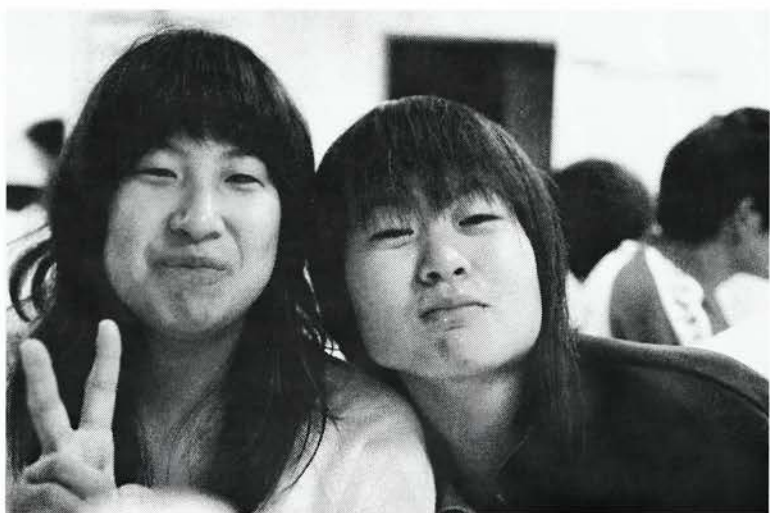
☆荒井駿



☆左から荒井冬香、梶山



☆左から小山、宇佐美



☆左から古満、佐藤詩織



☆左から笹原、東谷



☆佐藤敬近



☆藤村

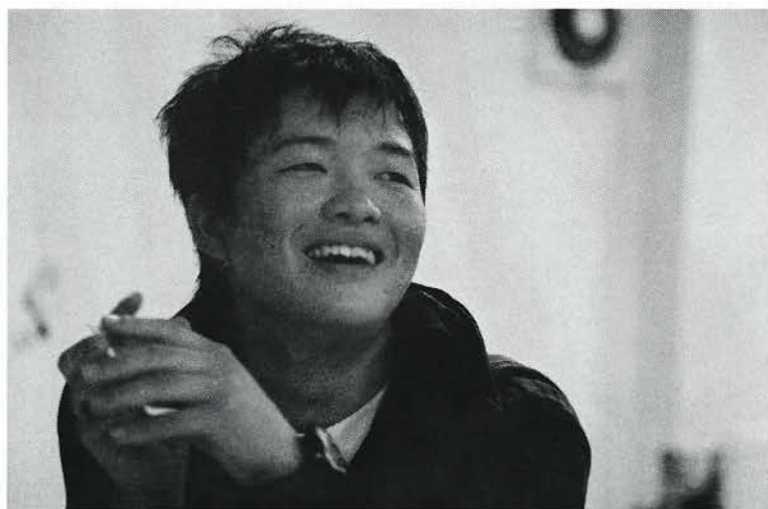


☆増永





☆松村



☆山谷



☆山本

☆荒井 駿(衛生・後援会)

僕のお菓子を食えないでください。

- ・3ない運動 ~寄らない、触らない、喋らない~
- ・3冠馬(ワースト)
- ・だから愛が重すぎるんだよ。

☆荒井 冬香(飼料)

- ・「ローラVS山川さん」が見たい。
- ・ばばあキャラでこの先大丈夫なん？
- ・ボロ山をこよなく愛す(?)
- ・森林ガール①

☆宇佐美 洋夢(企画)

オクサー行くで!!

- ・うさびょん。
- ・気をつけ!!
- ・山川に似てきた。あと村上にも似てきた。
- ・朝からの下ネタがきつつい。

☆梶山 恭子(大会関係)

うちの子を離厩させないで下さい。

- ・いつもおいしいパンをくれるパン屋さん。
- ・ノダ溺愛です。
- ・酪農でいいのだ。

☆古満 まりの(部報)

わー。うー。

- ・たてがみはきちんときろう。
- ・草刈りのときは、持った下を切ろう。
- ・男子のウザ絡みに対するスルースキルがついた…?
- ・まだまだ子供だね(笑)

☆小山 寛(ビデオ)

歴代最強を目指します。

- ・かきくけこ ぎしぎし ギリギリ
- ・いつも笑顔。お日様の顔! by古満
- ・ベルトせいや。
- ・シャツ入れえや。

☆笹原 良平(体育会)

- ・靴は底の厚さを見て買う男。
- ・心のイケメン。
- ・健気に誕プレをくれる男。
- ・乾麺落としましたよ①
- ・早くお腹を6こに割ってください。

☆佐藤 詩織(薬品)

- ・いつも怪我してるイメージがある。
- ・私のチャリ…6万円

☆佐藤 敬近(馬備)

やあ、敬近です。

- ・ヘビースモーカー。
- ・全てにおいてこだわりが凄い。

☆東谷 貴(作業)

別に体調が悪いわけではありません。

- ・「乗馬北海道大学です。」
- ・チャラマロG
- ・疲れるとスープカレーを食べに行く。
- ・スープカレー食べると顔が黄色くなるらしい。

☆藤村 伊咲(会計)

よろしくね(はあと)

- ・会計の鬼。目指してください。
- ・でもニート長の座に君臨しててください。

☆増永 梨合花(衛生)

部室だけでなく、地球全体をきれいにする。そんな衛生に私はなりたい。

- ・りりーかわいいーミニマム! by古満
- ・クッキーありがとう。美味しかった!
- ・今年のバレンタインデーの時は、大変お世話になりました。来年も宜しく願います。

☆松村 萌美(部報)

チェリーさんをバカにすんな。

- ・引き笑い。女子部室から聞こえます。
- ・松村→村松→村雨
- ・大会のアナウンスは良かった。
- ・森林ガール②

☆山谷 亮介(部報)

まだまだ成長したいです。人間的にも。

- ・1年!!
- ・乾麺落としましたよ②

☆山本 航平(大会関係)

飲みませんとは言いません。山本クリステルです。

- ・頑張ってきてこりになってください。
- ・部内で「だぼ」を流行らせた男。
- ・稲美町のため池は何個あるの？

◆ねこ



☆タマニンエレメント

☆タマニンエレメント

朝当だー!おーきろーーー!!! (AM3:00)

- ・顔を攻撃するのをやめてください。
- ・最近どこに行ってるの? → 狩ってます。
- ・目が怖い。
- ・でもガンジーの生まれ変わり。

## 編集後記

初めに、発行が当初の予定である4月から大幅に遅れてしまったことを、心よりお詫び申し上げます。中には待ちわびた方もいらっしゃるかもしれません。本当に申し訳ありませんでした。

2011年度は、北日学の2走で北焔号と江口兄が優勝し、さらに北大が2走、総合ともに団体優勝をすることができました。全日学では2走に4人馬、総合に2人馬が出場し、平芳兄が2走、総合において、ともに入賞しました。馬術部に入部し、先輩の活躍を目にしてきた私たち1年目が、この先輩の輝かしい活躍を引き継ぐことが出来るように、よりいっそう身を引き締めて練習に励みたいと思っています。

また、長年北大馬術部で活躍した北翔号と北彗号が離厩したという出来事もありました。入部して間もないことだったので、北翔号との思い出はそれほどあるわけではないのですが、先輩やOB方の話を聞くと、本当に素晴らしい馬なのだと感じました。北彗号は、全日まで共にしましたが、1年目の中でも北彗号の魅力に虜になった者もいました。かわいらしく、かっこいい馬だと感じました。みんなから愛されている北翔号と北彗号がこれからも愛され続け、幸せな余生を送ってくれることを祈っています。

なお、原稿の回収が遅れてしまったため、北彗号の離厩特集は来年度の部報に掲載させて頂きたいと思います。楽しみにしてくださっている皆様、本当に申し訳ありません。

最後に、広告掲載させて頂いた企業の皆様、お忙しい中、北翔号の離厩特集に寄稿してくださったOBの方々を始め、日々部を支えてくださっているOBの皆様、編集を手伝ってくれた現役部員に心から感謝申し上げます。

今後とも、北大馬術部をどうぞ宜しくお願いいたします。

古満 まりの・松村 萌美・山谷 亮介

北海道大学馬術部部報 第57号 平成25年 2月発行  
編集者 北海道大学馬術部部報担当  
古満 まりの・松村 萌美・山谷 亮介  
印刷所 ひまわり印刷株式会社  
〒065-0030 札幌市東区北30条東6丁目2-1  
発行所 北海道大学馬術部  
〒001-0023 札幌市北区北23条西12丁目  
TEL・FAX 011-737-1626  
銀行口座 北洋銀行 391-1-0443731  
表紙元写真撮影者 石井 祐佳

